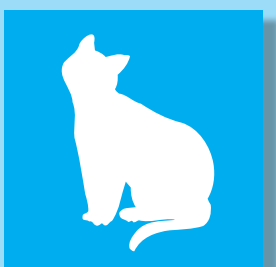
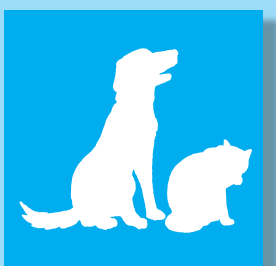


TEXTBOOK FOR COMPANION ANIMALS

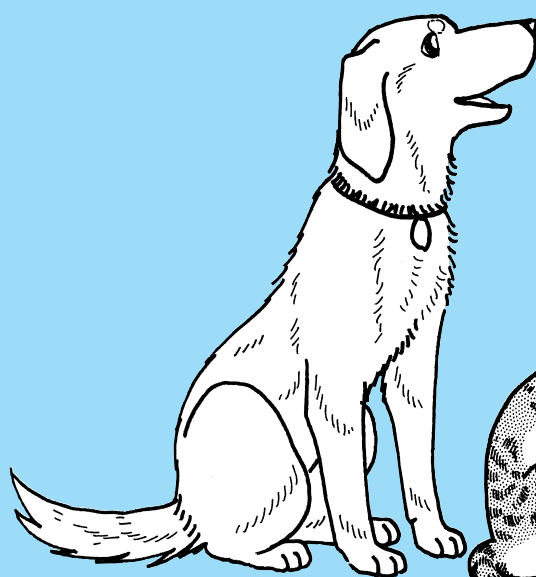


コンパニオンアニマルとともに

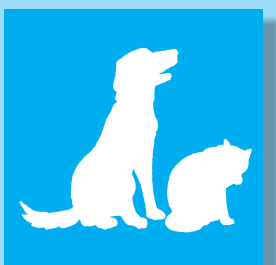
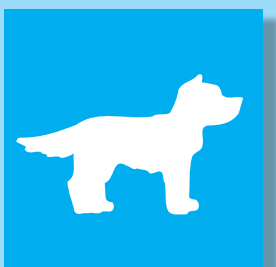
集合住宅で 犬や猫と暮らす



DOGS



CCATS





はじめに

人の暮らしは環境によって異なり、そのなかでさまざまな動物との関わりをもっています。世界中どんな場所でも、ペットとして人といっしょに生活している動物がいるといわれます。ペットは人とともに暮らす動物の中で、一番人間に近い存在といえるでしょう。

人は、都市という環境をつくり、多くの人が集合住宅で暮らしています。人と動物の関係は、都市で生活する上でのルールに則って、動物自身が本来持っている行動を抑制することで成り立っています。集合住宅でペットとよりよく暮らすためには、ペットを飼っている人々が責任を持ってペットを管理し、社会のルールに配慮していかなければなりません。

日本では、集合住宅におけるペットの飼育は欧米ほど自由ではありませんが、社会全体の理解もすすんでペットといっしょに暮らせるマンションやアパートが増えています。ペットと生活をしていない人々との理解を深めるためにも、まず最初に、飼い主がペットの犬や猫のしつけをきちんとすること、ペットが暮らせる環境づくりをすることが必要です。

最近、「ペット」が人間のパートナーであるという意味あいから、「コンパニオンアニマル」と表現され始めています。これは、今、私たち人間がペットをともに暮らす仲間として認め、ペットの立場を配慮することが求められているからに違いありません。

このテキストは、犬や猫の飼い主がペットとの関係をより一層理解し、集合住宅で周囲の人々と快適に、楽しく、ペットとともに暮らしていくことを目的としています。



CONTENTS

第1章 集合住宅とペット

- ・ペットと暮らす 3
- ・集合住宅に適したペットとは 5

第2章 猫との生活

- 1. 猫の行動範囲 8
- 2. 猫の飼い方
 - 子猫を迎える日 9
 - 子猫の育て方 10
 - 猫の手入れとしつけ 11
- 3. 猫とのコミュニケーション
 - ～ボディランゲージ～ 13
- 4. 健康管理
 - 食事 16
 - 伝染病とワクチン 17
 - ノミ退治 18
- コラム・集合住宅でペットと楽しく暮らそう! Part1. 猫の場合 20
 - ・猫と犬の避妊と去勢 21

第3章 犬との生活

- 1. 犬の行動範囲 22
- 2. 犬の飼い方
 - 子犬を迎える日 23
 - 子犬の育て方 24
 - トイレのしつけ 25
- 3. 犬のしつけ
 - ほめ方、しかり方 26
 - 犬をリーダーにしないしつけ 27
 - 散歩 29
 - 服従訓練 31
- 4. 問題行動とその対策 33
- 5. 健康管理
 - 食事 35
 - 病気と予防 36
- コラム・集合住宅でペットと楽しく暮らそう! Part2. 犬の場合 38

第4章 集合住宅でペットと暮らすためのルール 39

第1章

集合住宅とペット



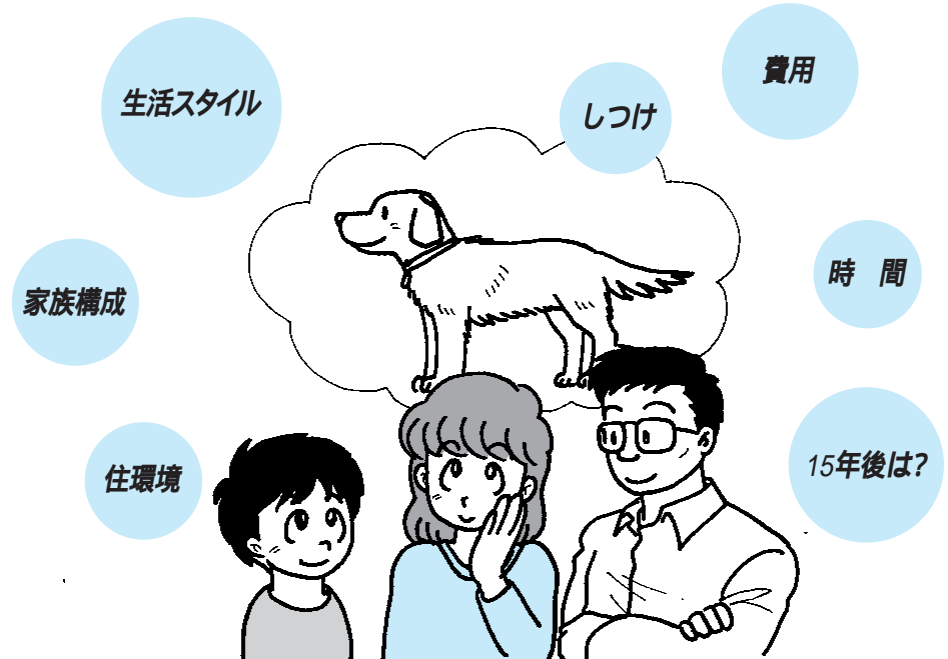
ペットと暮らす

飼い主としての心構え

肉食動物はその機敏な動きに大きな魅力があります。今では、ペットの代表となっている犬も猫も本来はそんな肉食動物の一種です。人間と暮らすようになって犬と猫の体型や性質は少し変わってきましたが、その動物が持つ野性味はそのまま本能として息づいています。また、すべての人が犬や猫に好感を持っているわけではありません。ペットと暮らす以上、動物が嫌いだという人との交流も必要となるのが都市という社会です。ペットと暮らすということは、周囲の人々と折り合っていくということです。動物の性質を尊重しつつ、人間の社会で生活するルールを共に学ぶ必要があります。

現在、たくさんの犬や猫が捨てられて処分されています。そんな動物を生みだしているその責任は当然、人間にあります。ペットはさまざまな理由で捨てられています。これは飼い主がペットの選び方を間違えたり、ペットを家族や周囲の人に適応させることができなかつたりした結果、ともいえるでしょう。また住む家が変わって飼えなくなったということもあるようです。

犬や猫の平均寿命は10年前後ですが、飼育上の条件がよければ15、6年は生きることが可能です。ペットといっしょに暮らそうというとき、自分の生活スタイルや家族構成、住環境を慎重に考えてください。そして、なにより「一生世話をする」という大きな心構えが必要です。



よい飼い主になるために

犬のしつけをしていますか？

ペットとの暮らしの中で、ペットを子供のように扱い、赤ちゃん言葉で話しかける人もいます。とくに、高齢化社会の日本では、唯一の話し相手がペットだという老人も少なくありません。核家族になり、地域社会との関係が希薄になりつつある現代社会では、話し相手をペットに求める人も増えているといえるでしょう。

そういう場合、甘やかすだけの関係になりがちで、とくに犬は、社会性が育たず、吠えたり、攻撃的になってしまうこともあります。どんなに小さくても本来、犬の持つ気質はそのままです。上手なしつけをしないと快適な暮らしが難しくなってしまいます。犬のしつけは犬と飼い主とのよい関係を保つための必須条件です。

ペットとともに過ごす時間はありますか？

犬といっしょに暮らそうと思うなら、きちんと犬と接する時間を持ちましょう。とくに子犬の間はしつけが重要で、飼い主が犬に接することができる時間が必要になります。犬は人といっしょにいることが好きな動物で、飼い主との接触をいつも求めています。たとえひとり暮らしの場合でも、帰宅してからのスキンシップは大切です。また、それは猫も同様です。犬や猫にとって、あなたといっしょに過ごす時間が必要なのです。

ペットにかかる費用を知っていますか？

ペットを飼うとき、食事代やペット用品、トイレの砂代などの費用がかかります。このほか、不慮の事故、病気などの出費もあげられます。犬や猫の平均寿命は約10年ですが、最近は寿命が伸びて、15、6年生きることもあります。いっしょに暮らす間、犬のため、猫のために、さまざまな費用を負担することができるかどうか、検討してみましょう。

Companion Animal



集合住宅に適したペットとは



猫の場合

猫は家の中だけでも満足

猫は、快適に暮らす環境さえ整っていれば狭い部屋でも適応します。そのため集合住宅では、犬よりも猫の方が飼いやすいといわれています。また、集合住宅では周囲の人々の迷惑になる可能性もあるので、家の中だけで飼うことをおすすめします。

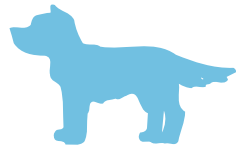
ただ、外に出ない猫にとっては家の中だけが世界のすべてです。高い場所や狭い空間が好きな猫のために小さな箱を高い場所へ置いたり、家の中を少し工夫するとよいでしょう。また、猫は、子供にしつこくつきまとわれることをいやがります。猫が安心して休める場所を確保してあげましょう。

犬ほどではありませんが、猫にもいろいろな品種があり、性質もそれぞれ違います。たとえば、ペルシャ系統の猫はおとなしくあまり鳴かないので、マンションなどの集合住宅では飼いやすいといえます。ヒマラヤンも性質的におとなしい猫です。一方、アビシニアンは活発な猫ですが、家の中だけの暮らしにも問題はありません。今人気のあるアメリカンショートヘアーは、ヨー

ロッパ人がアメリカに渡ったときにいっしょに連れて行ったもので、ヨーロッパの短毛種と性質は同じです。これらの系統の猫は屋外に出て遊ぶのが好きで活発ですが、環境への適応力が強いので、室内での暮らしにもすぐ馴れます。

日本猫もいっしょに暮らしやすい種類です。日本猫といっても雑種が多く、毛が短いのが特徴です。人なつこくて、いっしょにいて楽しい猫です。日本猫は欧米種の猫に比べ、一回り小さく、身のこなしが軽く、快活ですが、うるさく鳴くことはあまりありません。

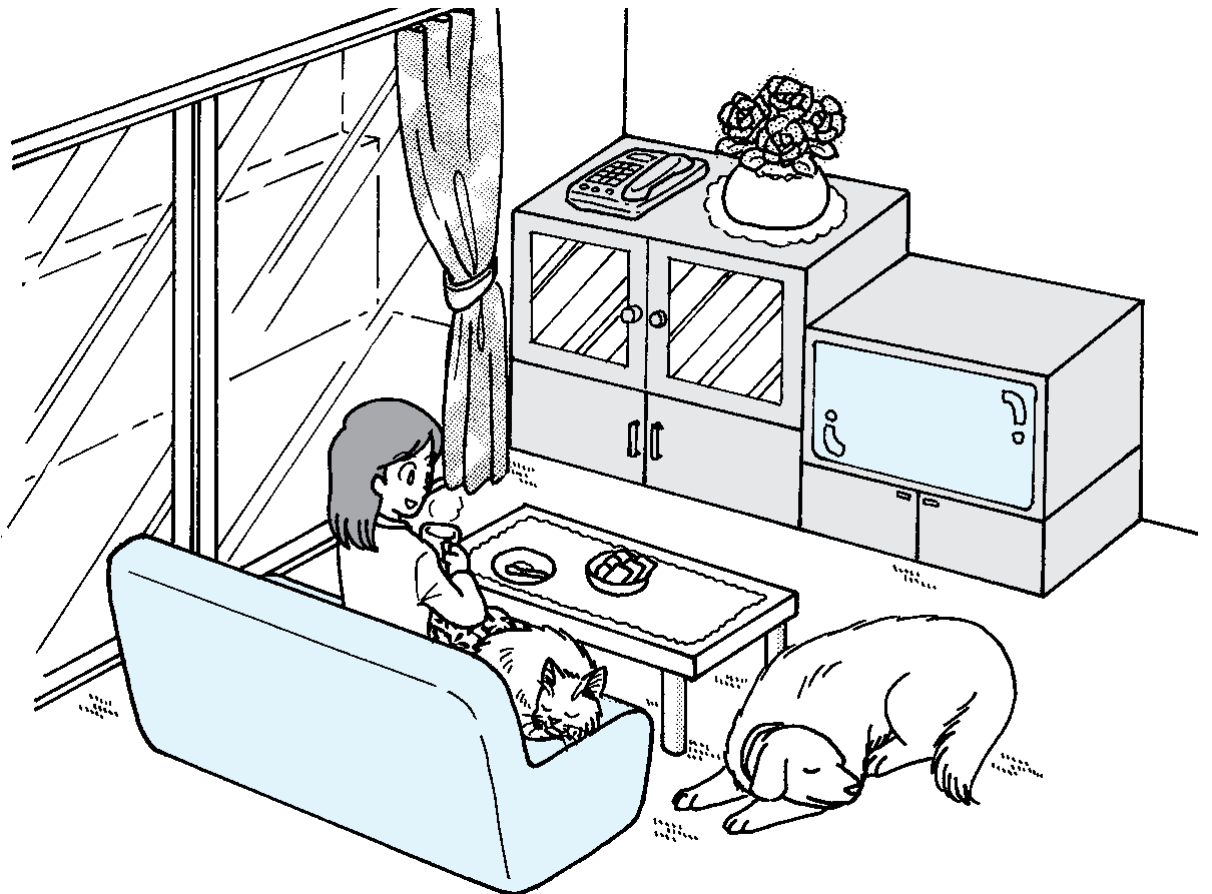
猫は犬のように散歩に連れだす必要がありません。品種の持つ性質を熟知した上で選べば、集合住宅での暮らしにとって理想的なペットともいえます。



犬の場合

人間と犬との歴史は長く、犬はさまざまな目的に使われました。そのため、種類によって驚くほど形や大きさが違います。使用目的により、見た目だけではなく性質も改良されてきました。たとえば同じ猟犬でも、ウサギを追い出すために改良されたビーグルは、吠えながら追跡する性質で、鳥猟に使うセッターなどは、鳥が飛び立たないように、吠えずに追跡する性質です。また、レトリバーは鳥などの回収に使ったため、吠えることも必要以上に走りまわることもありません。

品種改良による犬の性質から考えると、集合住宅では、小さなビーグルより大きなレトリバーの方が扱いやすいということになります。しかし、しつけを十分にしていなければ、大きい犬は飼い主の体力を必要とするので、コントロールしにくいという面もあります。集合住宅では犬の大きさにかかわらず、穏やかで親しみがあり、愛情深く、飼い主に従順な性格の犬を選ぶことが大切です。



集合住宅で比較的飼いやすい犬種

マンションやアパートなどの集合住宅で犬とともに暮らしていくためには、犬が周囲の生活に適応できるよう、飼い主が配慮する必要があります。下記の犬種は集合住宅で比較的飼いやすい代表的な犬たちですが、ほかにもマンション・アパート暮らしに適応できる犬種は少なくありません。

いずれにしろ、集合住宅でともに暮らすとき、どのような犬種であろうと自分の愛犬がどんな性質なのか知った上で、きちんとしつけ、基本的な社会のルールを守るという、飼い主の責任ある行動が、何よりも大切です。

犬種	大きさ	毛質	性質・特徴
キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル	大きめの小型犬	長毛	警戒心は少なく、むだ吠えもあまりしない。性質はおだやかで、飼い主によく従う。
シー・ズー	大きめの小型犬	長毛	従順で扱いやすい。感情の起伏が多少あるが、体も丈夫で、目のケアに注意すればあまり病気もない。
ダックスフンド ・スタンダード ダックスフンド ・ミニチュア	大きめの小型犬 小型犬	短毛と長毛	従順で丈夫。非常に利口で訓練にも良く応え、きちんとしつければ、むだ吠えも少ない。飼い主に対しては、非常に献身的である。
狽(チン)	小型犬	長毛	長毛ではあるが、抜け毛、体臭は少ない。性質はおとなしく飼いやすい。
バグ	大きめの小型犬	短毛	むだ吠えが少なく遊び好きだが、少々頑固。
パピヨン	小型犬	長毛	穏やかな性質。 吠えたり、嘔みついたりすることが少なく、陽気で活発。
ラブラドル・レトリバー	大型犬	短毛	やさしく忠実で落ち着いた性質。盲導犬としての活躍はよく知られ、従順で信頼できる性質を表している。十分な運動が必要。

第2章

猫との生活

猫は犬のように社会的集団をつくらないので、リーダーに従うということがありません。はっきりした順位がない分だけ、しつけの難しい動物です。しかし、都市生活の中では、猫を勝手気ままに生活させるわけにはいきません。飼い主には猫を管理する必要があります。まず初めに、猫の行動の特性を理解しましょう。

1 猫の行動範囲

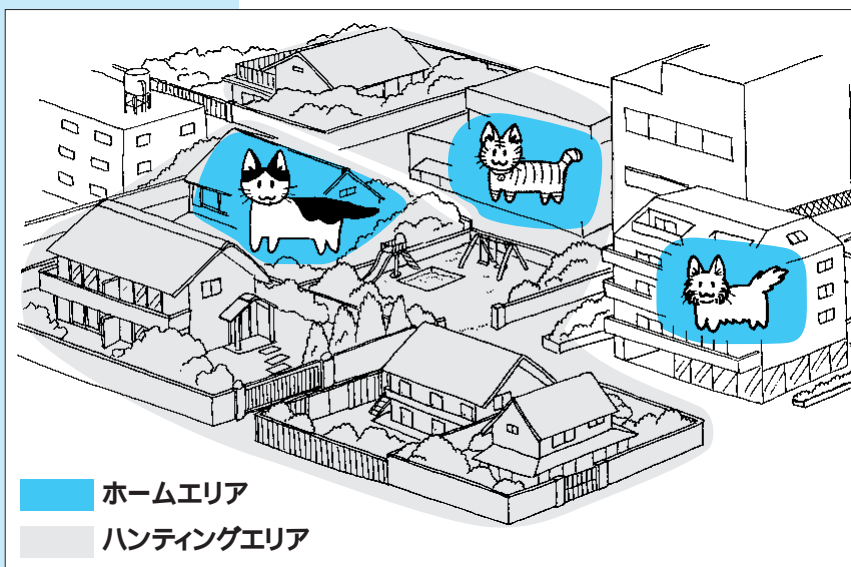
猫の行動範囲には、ホームエリアとハンティングエリアがあります。集合住宅の場合、ホームエリアは部屋とベランダになりますが、戸建の場合、これに庭も含まれます。ただ、猫は、ほかの猫が庭やベランダへ入りこむことにもある程度寛大で、ときには部屋の中への侵入も許します。つまり、犬のように外部からの侵入を絶対に許さないという厳密なものではないのです。

狩りの方法は待ち伏せ型で、物陰に隠れて獲物を狙います。ハンティングエリアはあまり広くなく、他の猫と共有するのが普通です。ハンティングエリアを使うときは

まず、マーキングをして自分の存在を示します。後から来た猫は新しいマーキングがあれば、そこにすでに猫がいるということを知って、他のエリアに移ります。このように、猫は明確な強さの順位よりも優先権が尊重されることが多い動物です。

猫は基本的に単独行動ですが、環境によっては、メス猫を中心とした群れをつくります。ときには、2～3頭のメス猫が共同保育することもあります。オス猫もその集団に属しますが、メス猫より行動範囲が広く、隣接するメス猫の集団にも容易に入り込んでいきます。また、オス猫は発情期になるとメス猫を求めて、かなり広い範囲を行動します。

猫を生活形態で分けると、家の中だけで食べ物をもらっている内猫と、外で食事を与えられ家に入れてもらえない外猫とがいます。内猫と外猫では行動範囲が異なりますが、本来、猫はどこに住んでも自分の安心できるなわばりがあれば暮らしていけます。部屋の中だけで暮らしている猫の場合は、猫の行動範囲が制限されると心配しがちですが、飼い主が猫にとって快適に暮らせる環境をつくってあげさえすれば問題ありません。



2 猫の飼い方

子猫を迎える日

はじめてのペット

子猫が来た場合（猫や犬のいない家庭に）

子猫が来る日は家中が、新しい家族の一員の到着を期待しています。寝る場所、食事、食器、トイレなどを準備したり、子猫との楽しい生活を夢みたり、少し落ち着かない雰囲気かもしれません。

しかし、子猫は期待どころか、知らない場所に行く不安な気持ちでいっぱいです。定住生活をする猫は場所の移動による環境の変化をあまり好みません。子猫が来た日は子猫に気のすむまで家の中を調べさせ、危険な場所ではないことを確認させてあげることが大切です。子猫は自分にとって安全かどうかをチェックするのですから、子猫自身に調べさせてあげましょう。また、意外かもしれませんが、子猫にとっては人

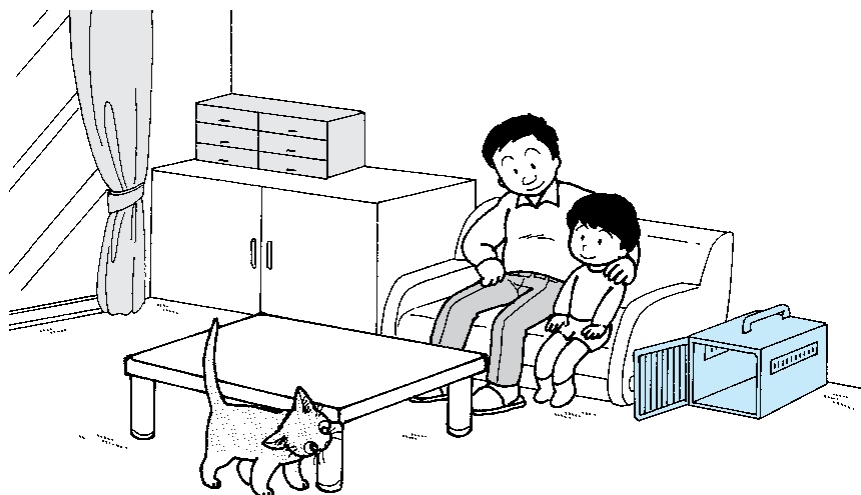
間の子供が大敵になる場合もあります。猫は成長しても1日の3分の2、つまり約16時間も寝ている動物ですが、子猫はもっと睡眠が必要です。そのため、1日中子供につきあう体力はありません。最初の日はただ見守るだけにしましょう。

すでに猫がいる家庭に 子猫が来た場合

新しい猫が来ると前からいる猫が家出をしてしまうことがあります。新しい猫には少しかわいそうですが、前からいる猫をよりかわいがってあげましょう。猫は犬のようにはっきりした順位をつくりませんが、優先権ははっきりしています。前からいる猫の優先権を尊重して、新しい猫が前からいる猫にしつこくつきまとわないよう気をつけましょう。

動物病院で 健康診断を

子猫を家に迎えたとき、伝染病にかかっていないかどうかを調べるのが大切です。致命的な慢性的病気を起こすウイルスに感染している場合があります。見ためは元気でも、すでに感染している子猫もいます。新しい子猫がきたら、まず近くの動物病院でウイルスチェックを受けましょう。



子猫の育て方

子猫は最初の1週間、ただ母乳を飲むだけの生活です。2週目になると目が開き、耳が聞こえるようになります。3週目になるとまっすぐ歩くようになり、巣から出ることができるようになります。母猫は子猫が危険な場所へ行ったときや巣の場所が危険だと思ったとき、子猫の首をくわえ安全な場所へ運びます。

離乳が始まる3週目頃から、「社会化」と呼ばれる子猫にとって大切な時期が始まります。この時期、周囲の人が積極的に子猫と接触しておかないと人とのよい関係は生まれません。同じ人だけではなく、子供から老人までいろいろな人と接触することが大切です。子猫の社会の広がり、最初は母猫、次にいっしょに生まれた兄弟、そしていっしょに暮らす飼い主とその家族、家庭の中のほかの犬や猫、近所の人や動物という順序で生まれ、その中で子猫の社会性が築かれます。とくに集合住宅では家族以外の人と接触する機会が少ないので、子猫の社会性を身につけるため友人などに子猫を見に来てもらうとよいでしょう。

また、子猫を譲り受けるときやペットショップから買うときは生後60日以上であることを目安にしてください。早い時期にもらうと、母猫とすぐに離されたことで抵抗力も弱く、情緒が不安定になることがあります。

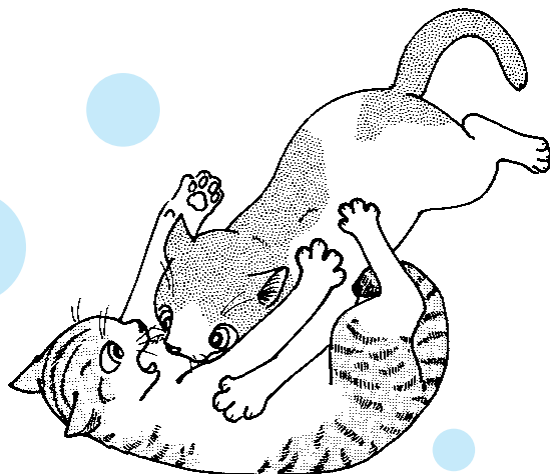
子猫の遊び

子猫の遊びは本来持っている狩りの衝動の表われです。成長とともに遊びは少なくなるものですが、部屋の中だけで暮らす猫は生涯遊びを続けます。外へ出るという行動は食物の確保と異性との出会いが目的ですから、食事が与えられ、去勢・避妊手術を受けていれば外へ出る理由はほとんど消

えてしまいます。ただ、狩りの本能だけは消えることはありません。飼い主と遊ぶという疑似の狩り体験をさせ、ストレスを発散させてあげましょう。そうすることによって、猫はそれを楽しむようになり、家の中だけでも満足して暮らすようになります。

取っ組み合い

いわゆる格闘の練習です。猫はランクをつけることにそれほどこだわりませんが、取っ組み合いを通して子猫の中の力関係を決めていきます。遊び相手をしたとき、いつも負けてあげると子猫は人より強いと勘違いをしてしまうことがあるので、気をつけましょう。母猫がいれば母猫を相手に戦いますが、母猫は気に入らないと噛んだり追い払ったりするものです。そうやって遊びのタイミングを教えているのです。



ボール遊び

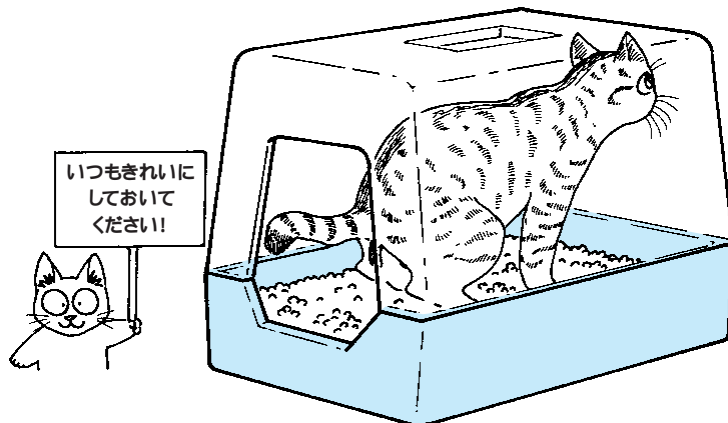
ボールや丸めた紙は、猫にとって獲物の代わりです。飼い主がボールの動きに緩急をつけてやると、子猫は、ねらいを定めたり、待ち伏せてジャンプしたり押え込んだりと、狩りの疑似体験を楽しむようになります。

紙遊び

丸めた紙を押さえたり前足の間で転がしたりするのはネズミを獲る行動、前足で引っかけて後ろへ放るのは魚を獲る行動だといわれています。軽い紙を相手に自分で弾いて飛ばしたり追いかけてたりして一人遊びをします。

猫の手入れとしつけ

トイレのしつけ



猫はもともと決まった場所で排泄する習性があるので、トイレのしつけは比較的簡単です。部屋の中にトイレを準備するとすぐに覚えます。子猫のときは、浅いプラスチックのトレイで代用し、大きくなってから市販の猫用トイレを用意するといいでしょう。オス猫にはメス猫より大きいトイレが必要です（オス猫に小さなトイレを与えると周囲を汚してしまいます）。また、周囲の人々に迷惑をかけないために、外に自

由に出ている猫であっても、家の中のトイレを使わせることが大切です。いつもきれいなトイレなら外より家の中を選びます。

猫用トイレには、新聞紙を裂いたものか、市販のトイレ用砂を入れます。新聞紙は安上がりですが、匂いが消えず、すぐに汚れて猫が嫌がることもあります。トイレ用の砂は消臭効果が大きいので、清潔好きな猫の満足度が大きいようです。トイレ用砂には可燃性のものや、水洗トイレに流せるタイプなどがあります。

トイレは、猫1頭に2つ、2頭の猫には3つトイレを用意することがベストです。また、フード付きのトイレの方が匂いも少なく、まわりを汚すこともありません。

猫はちょっとした環境の変化やストレスで、トイレに関するトラブルを起こします。トイレはいつも清潔を心がけ、場所は入り口をさけて部屋の隅にするなど、安心できる快適なトイレを作りましょう。

Companion Animal

グルーミング

猫にとってグルーミング(毛の手入れ)は大切なことで、飼い主からグルーミングしてもらうことも大好きです。猫が自分自身でするグルーミングをセルフグルーミングといいますが、毛並みを整えることのほかに、体からの分泌物、フェロモンや脂肪酸などを毛につけるという意味もあります。

一方、年老いた猫や病気の猫はセルフグルーミングをあまり行いません。つまり、セルフグルーミングをしない猫はどこかに異常があると思った方がよいでしょう。

また、グルーミングは、ストレスの発散という役割も持っています。何かに失敗したとき、照れかくしのように突然グルーミングを始めたり、強いストレスがあると過度のグルーミングをするようになったりします。必要以上にグルーミングをするときも、要注意です。

グルーミングで舐めた毛は、普通、口から体内に入り、便の中に排泄されますが、胃の中で丸く固まり吐き出されることもあります。嘔吐の激しい場合は、体の水分やミネラルのバランスを失い病気になることもあります。また、便の中にあまり毛が多いと便秘の原因にもなるので、気をつけましょう。

長毛の猫、老猫、病気の猫、過度のグルーミングを行う猫には、飼い主がグルーミングをしてあげましょう。ブラッシングに慣れさせるためにも手でなでる他、とくに長毛種には、櫛などを使うとよいでしょう。

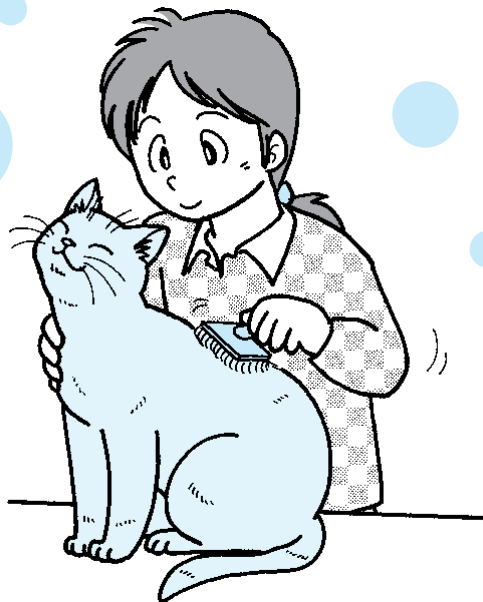
猫の毛は大変軽くすぐ部屋の外へ飛んでしまうので、隣近所への配慮が必要です。グルーミングを行うとき、ベランダや廊下など共有部分は避けてください。

爪とぎ

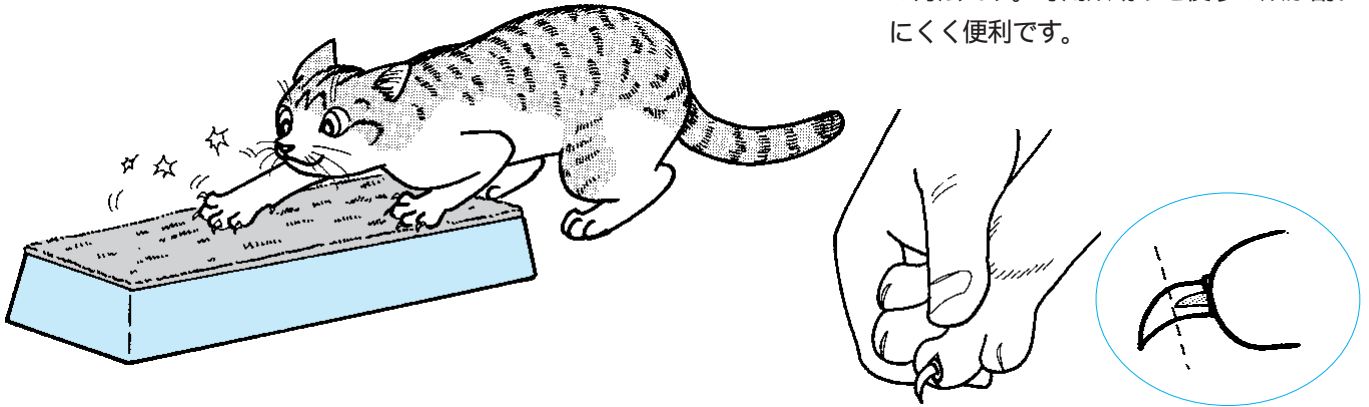
猫の行動のなかに、いっしょに暮らす人間にとって迷惑なものがいくつかあります。

その代表が爪とぎです。猫の爪は普段、鞘の中に隠れているので、歩いても磨耗しません。爪とぎをして上から順番にはがしていく仕組みです。また、爪とぎはマーキングの一種でもあり、足の裏から出る分泌物の匂いをなわ張り内につけています。

爪とぎは猫の自然な行動なので、止めさせることはできません。柱や家具に代わる爪とぎ器をつくるか、市販の爪とぎ器を使い、少しでも傷にならないよう防ぎましょう。爪とぎをされては困る場所には、ガムテープやビニール系などの滑る素材を貼るのも効果的です。また、爪を切るのも一つ



の方法です。専用爪切りを使うと爪が割れにくく便利です。



3

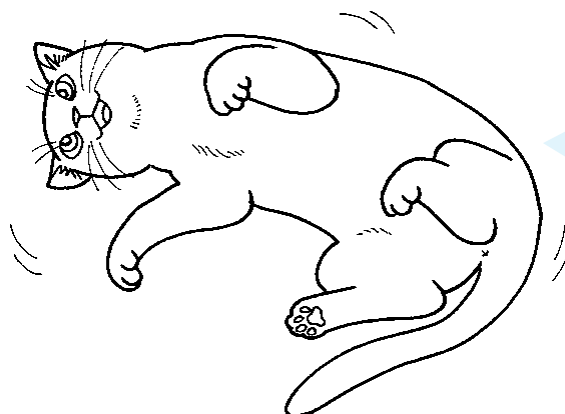
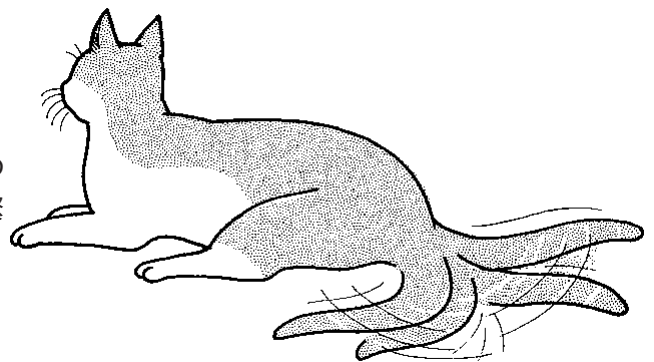
猫とのコミュニケーション

～ボディランゲージ～

猫は人間のように言葉を使って話をするできません。しかし、鳴き声やしぐさで猫の気持ちを理解することはできます。猫と楽しくコミュニケーションするために、どんな気分のときに、どのようなしぐさをするのが覚えておくとよいでしょう。

機嫌を表すしっぽ

大きくゆっくり振っていれば、その猫はご機嫌。逆に素早く振るのは緊張している証拠だといわれます。

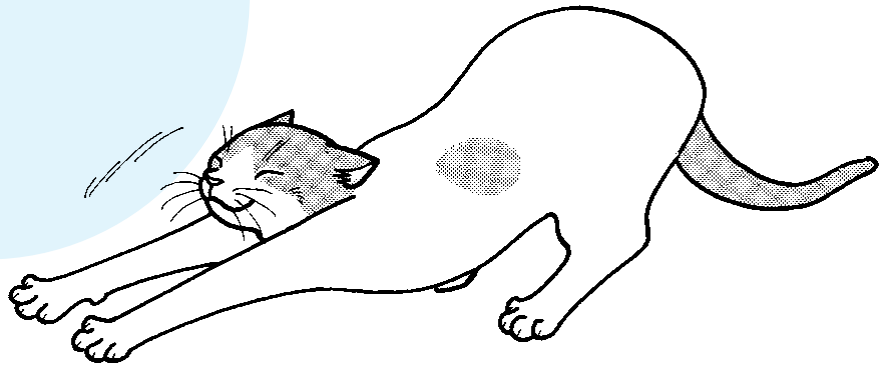


遊びの誘い

横向きにごろりと寝転ぶのは、遊びの誘いのポーズ。子猫の頃は、人間の足、母猫のしっぽなど、遊び相手になるものなら何でも遊びたがります。動かぬ小石や、自分のしっぽでさえも、おもちゃにしてしまいます。長い草や、毛糸など、手触りのよいものが特に好きようです。

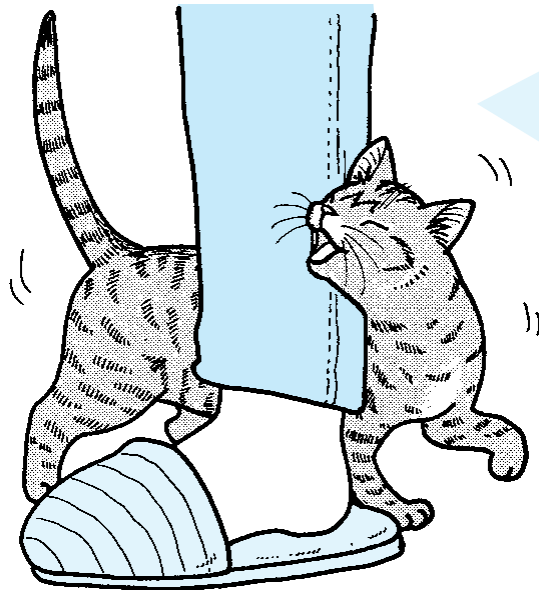
リラックスのポーズ

ゆっくりと伸びをするのは、体の緊張をほぐしたり、リラックスしたいときです。



体をすりよせおねだり

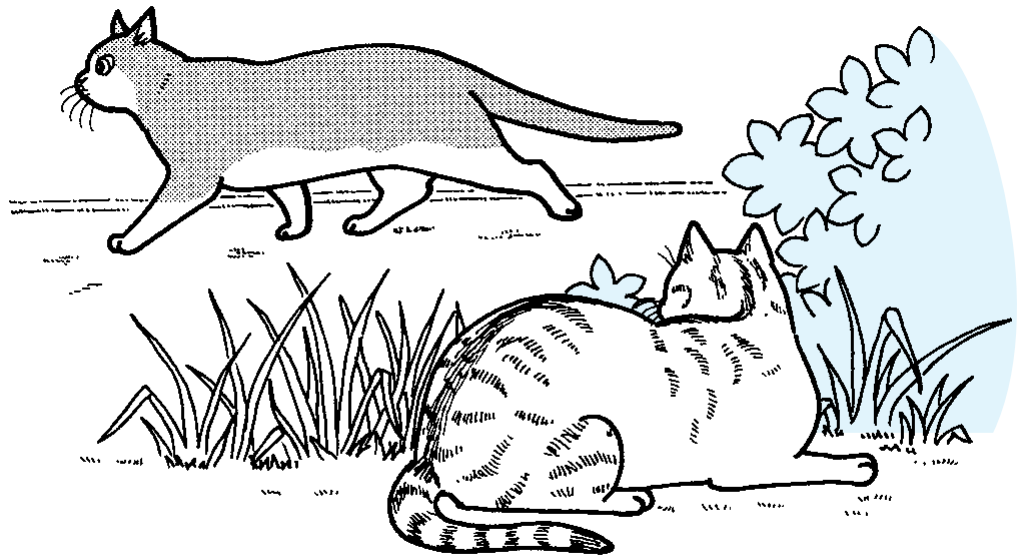
人間の足に顔から脇腹をこすりつけるのは、ごはんをおねだりしているとき。もともとは子猫が母にエサをねだるときの行動ですが、自分の匂いを人にしみつけて、「自分の物」として主張する「マーキング」の意味もあります。



緊張しての仰向けは 徹底抗戦の構え

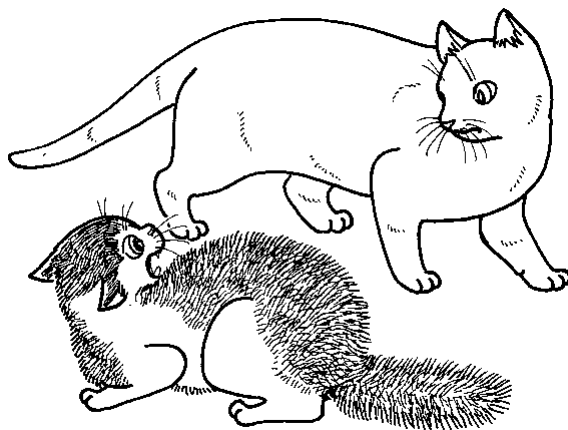
耳を伏せ、仰向けになって爪を出しているときは徹底抗戦の構え。爪と牙を使っていつでも攻撃できることを示します。たとえ飼い主であってもこのポーズをとったときは、決して油断できません。お腹を触ろうとしたとたんに噛みつかれることも珍しくないからです。





じっとして牽制しあう

ハンティングエリアで顔見知りの猫と出会ったら、どちらかが行ってしまうまで、じっと待っていることがよくあります。お互い近づきすぎないように牽制しあい、視線は合わせないようにしてやり過ごします。

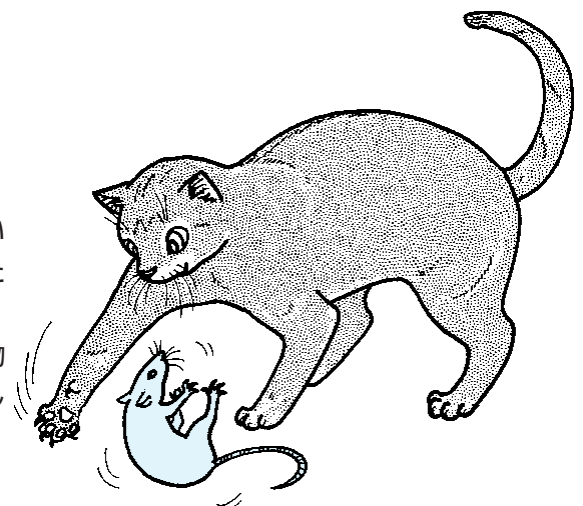


ケンカの態勢

はじめて会う猫とは、お互いに鼻先やおしりの匂いを嗅ぎあおうとします。ときには、相手に嗅がせようとせず、ケンカになることもあります。優位に立つ猫は、落ち着いた様子で体の毛も寝たままですが、自分の方が弱いと感じている猫は、背中を弓なりに丸め、毛を逆立てて威嚇します。

ハンターの本能

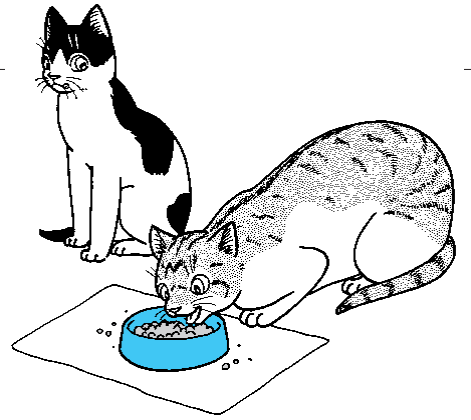
猫は生まれながらに狩猟本能を持っています。ネズミやゴキブリなど、捕まえた獲物になかなかとどめをささずに、よくもて遊んでいることがあります。獲物を追いかけて捕らえる衝動を発散させ楽しんでいるのです。



4

健康管理

食事



一般的に、日本人は欧米人より多くの魚を食べています。そのため、日本では猫も魚好きだと信じられているようです。確かに日本では漁港でこぼれ落ちた魚を目当てに多くの猫が暮らしていますが、ほかの国ではどうでしょうか。欧米の猫は肉を好んで食べ、日本の猫ほど魚を食べません。また、野生化した猫はウサギやネズミなど、近くにいる動物を主食にしています。このように猫は食べ物に対して適応力のある動物なのです。

猫に必要な栄養素はタンパク質、脂肪、ビタミン、ミネラルなどです。とくに、動物性タンパク質や脂肪を多く必要としています。魚だけ、肉だけの食事では栄養が偏ってしまいます。猫の健康のためにバランスのとれた食事を与えることが大切です。

便利で安心して与える事ができるキャットフード

多くの飼い主が猫にキャットフードを与えています。キャットフードにはいろいろな種類があります。「総合栄養食」という表示のあるものは、猫に必要な栄養素がバランスよく配合されていますから、安心して与えることができます。キャットフードは水分の量で大きく2つに分類することができます。猫の好みにあわせて選びましょう。

ドライタイプ

水分の含有量が10%以下で、加圧押し成型によりカリカリになった粒状のフード。栄養のバランスがよく、適度な硬さは歯のためにもよく、比較的保存に適しています。必ず新鮮な水を十分に与えるようにしましょう。

ウェットタイプ

水分が75%以上含まれているもので、缶詰やアルミトレイに入れて販売されています。魚や肉などの素材の食感や風味を生かし、栄養バランスがよく、また嗜好性が高く、種類も豊富です。猫の好みにあわせて選ぶことができます。

食事の与え方

離乳後キャットフードを与えはじめますが、子猫はまだ胃が小さいので、少量でも栄養価の高い食事を1日に数回に分けて与える配慮が必要です。生後1~2か月は1日に4回程度、生後6か月くらいまでは、1日3回程度、それ以降は1日に2回程度を目安に与えます。

1日の必要カロリーは子猫・成猫・老猫など、そのライフステージによって違います。獣医師やペットショップの販売員に相談してみるとよいでしょう。

伝染病とワクチン

猫がかかりやすい病気のなかで、とくに注意したいのが下記の6つの伝染病です。

急性で、感染すると短い潜伏期で症状が現れるのがパルボウイルスによる伝染性腸炎、伝染性呼吸器疾患のカリシウイルスによる猫カリシウイルス感染症、ヘルペスウイルスによる猫ウイルス性鼻気管炎の3種類です。子猫の場合または合併症のない場合は、どれもけっして危険な病気ではなく、治療によって完治します。

一方、コロナウイルスによる伝染性腹膜炎、猫白血病ウイルス感染症、猫エイズは非常に危険です。これらは症状が現れないまま長くウイルスを持っているキャリア状態がつづき、症状がでると治りにくい病気です。

ワクチンの種類

急性伝染病の3種混合ワクチンと猫白血病ウイルス感染症のワクチンとの2種類があります。3種混合ワクチンは伝染性腸炎

を起こすパルボウイルスと伝染性呼吸器疾患、すなわち風邪を起こすカリシウイルス、ヘルペスウイルスのワクチンが含まれています。

ワクチン接種の時期

どのワクチンも生後2か月になる前に1回目を、さらに1か月後に2回目を接種し、その後は1年毎に追加接種を受けることがすすめられています。

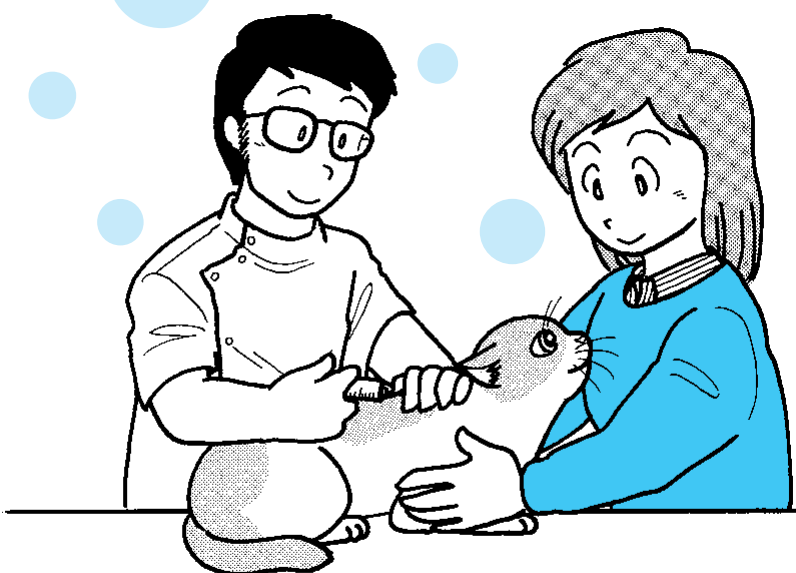
伝染性呼吸器疾患は、人間の風邪と同じように冬が流行期です。ワクチンの効果から考えると流行期前の秋に一度接種することが望ましいでしょう。

猫白血病ウイルス感染症は、子猫が感染するとかなり高い確率で発病します。子猫を新しく家庭に加える場合は、前からいる猫のウイルスチェックをし、もし、キャリアなら隔離しましょう。キャリアでなければいっしょにしても安心です。

繁殖させる場合は、母猫の免疫を子猫が受け継げるよう、母猫の交配前もしくは妊娠中にワクチン接種をするとよいでしょう。拾ってきた子猫は健康状態に問題がなければ、早い段階でワクチンを接種しましょう。子猫を人に譲る場合は、ワクチンを接種してから渡したいものです。

予防接種を受ける際の注意

体が弱っていると接種後に体調を崩してしまうこともあります。接種前に猫の健康状態をきちんとチェックしましょう。また、接種後は激しい運動などを控えさせ、体調に変化があるようなら獣医師に相談しましょう。



子猫を産ませるときの注意

定期的に血液検査で感染状況をチェックすることをおすすめします。子猫を産ませるときには、必ず血液検査をしましょう。

母猫がウイルスを持っているキャリアの場合は、症状がでないで見落としてしまうことがあります。キャリアの母猫には子供を産ませてもらってはいけません。子猫への感染は母猫の母乳や唾液の中のウイルスから起こるからです。もちろん、交配相手のオス猫がウイルスを持っていないことを確認することも必須条件です。

ウイルスから猫を守る

猫をウイルスから守るには、ウイルスが蔓延しているような危ない場所へ近づかせないことです。都会には、誰かが食べ物を

与え養っている外猫がたくさんいます。食器はみな共有で、伝染病の温床となっています。捨て猫などは、ここでウイルスに感染する場合があります。

ウイルスに感染させないためには、外に出さないこととワクチンの予防接種が重要です。

捨て猫を拾った場合や、予防接種を受けていない子猫を譲ってもらった場合、その猫がウイルスを持っている可能性があります。すでに飼っている猫と、すぐにいっしょにしてしまうと感染の可能性があります。新しい猫はしばらくケージに入れて様子を見てください。その間に動物病院で検査を受け、安全が確認されてからいっしょにしましょう。この方法は、新しい猫と前からいる猫との折り合いをうまくつける方法としても役立ちます。

ノミ退治

猫と暮らす上で悩まされることの一つにノミがあげられます。ノミの中でも猫ノミが一番元気で、犬につくノミのほとんどが猫ノミだといわれています。ただし、人には刺すだけですみつくことはありません。

ノミ退治は床の掃除から

猫の体にすみついている成虫はノミ全体の5%に過ぎず、残りの95%はカーペットなどの中にすみついている幼虫やサナギです。ノミの卵は、キラキラ光るけし粒のように小さく、粘着力がなく、猫の毛の間で産み落とされてもすぐに床に落ちてしまいます。床に落ちた卵はふ化して毛のない毛虫のような幼虫になり、カーペットの中や

床の暗いところで、サナギになるまでひっそりと生活します。そこへ猫や人が近づくと、その足の振動でサナギの殻が開き、ミが生まれます。猫の体についているノミを退治するだけでなく、床をいつも清潔にすることが大切です。

ノミ退治の薬と方法

ノミ退治の薬は、新しいものが次々に開発されています。最新情報をチェックしてください。ノミの成虫には殺虫薬が使われますが、首輪やスポットタイプの薬剤に関しては獣医師によく相談して使用しましょう。

首輪

首輪の中に薬品を含ませたもので、動物病院で扱われているものと、一般で販売されている医薬部外品があります。動物病院で扱う劇薬指定のタイプは取り扱いを慎重にしなければなりません。

スポットタイプ

猫が自分で舐めることのできない首の後ろに液体の薬をつけ、殺虫するタイプです。最近では低毒性の有機リン以外のものも発売され、効果をあげています。扱いには注意して、複数の猫を飼っている

場合はお互いに舐めあわないようにしてください。

スプレー

猫の体につけるものと、床用とがあります。体につけるものには、殺虫するタイプとノミの発育を阻害するタイプがあります。最近では、速効性がありかつ2~3か月効果のある副作用の少ないスプレーもあります。たくさんの猫がいる家庭ではもっとも効果があがるようです。

フォーム

ムースタイプのもので泡を体につけ、殺虫します。

内服薬

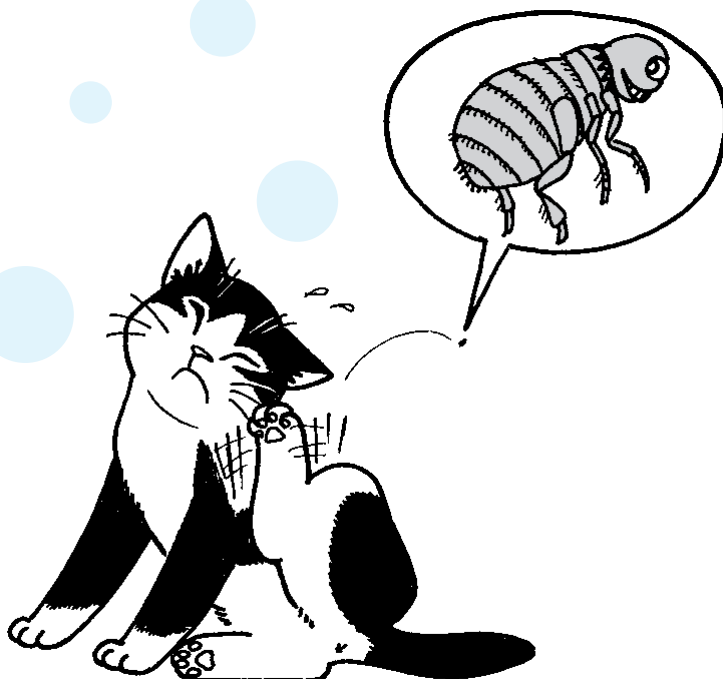
1か月に1回飲ませる内服薬です。ノミの幼虫の成長を阻害するもので、成長したノミには効果がありません。副作用はほとんどなく、効果がでてくるまでには多少時間がかかります。

注射

ノミの幼虫の成長を阻害する注射があります。6か月に1回、年2回注射することで予防ができます。

手では絶対つぶさない!!

なじみ深い方法ですが、つぶした際にノミの内臓とともに卵が周囲に飛び散り、ノミやサナダ虫を猫にうつす原因になるので絶対やめましょう。

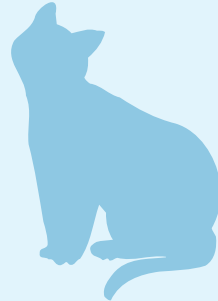


集合住宅で

ペットと楽しく暮らそう!

Part 1

猫の場合



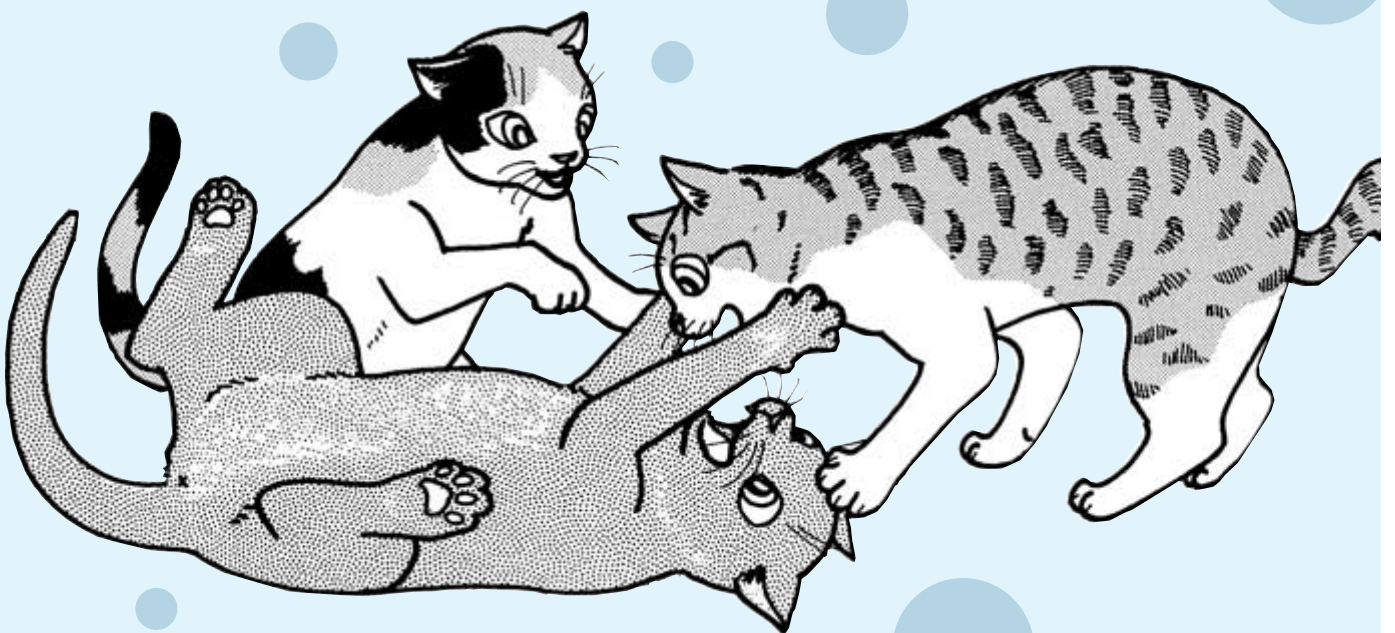
猫も仲間とストレス解消

室内で飼い主とだけ生活している猫は、いくつになっても遊び好きな反面、他人に対して警戒心の強い猫になる傾向があります。猫は単独行動が基本とはいえ、ほかの猫との接触が嫌いなわけではありません。むしろ2~3頭で暮らすほうがいっしょに遊んだり、適度な緊張関係が生まれたりして、精神的にはいいようです。

とくに家族の全員が留守がちな家庭では、複数飼育によって猫のストレスも解消されます。ただし多すぎる場合は逆効果となります。自分だけの時間と場所が持てるよう、少し高い所に猫が逃げ込める狭い空間をつくっておくとよいでしょう。

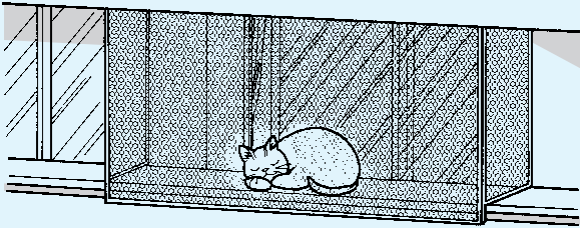
室内飼いのすすめ

集合住宅で猫を飼うには、猫の保護のためにも、共有部分を汚さないためにも室内で飼うことをおすすめします。万一、猫が外に出てしまったら、すぐに猫を連れ戻し、汚したところがないか確認し、見つけたら始末をしておきましょう。また、猫のトイレも注意のポイント。臭いが隣近所の迷惑になるので、ベランダにトイレを置かないこと、トイレ以外の場所でそそをしたら、その場で叱ることも忘れないでください。



ベランダにはフェンスを

集合住宅では猫がベランダから落ちてしまうという事故があります。住民の合意があれば、高層階のベランダには、猫が移動できないようフェンスを張り、安全を確保してください。また、ベランダにトイレを置いたり、ブラッシングをしたりしないようにしましょう。



遊びも大切

家の中で暮らす猫は成猫になっても、狩りに似た遊びが大好きです。遊びでエネルギーを発散させることで、精神的に安定します。市販されているおもちゃなどを使って、獲物を狙う、待ちぶせとジャンプの疑似行動を満足させましょう。おもちゃをわざと隠したり隠したりすると、猫は一生懸命探し楽しめます。ただし、3頭以上の猫とこの遊びをすると、かなりの騒音がします。必ず音を吸収する敷物のある部屋を選んでください。

猫と犬の 避妊と去勢

飼い主が責任を持って、子犬や子猫を育てられる場合は別ですが、生まれた子犬や子猫をすべて世話することができないのなら、避妊と去勢の手術をおすすめします。現在、日本では、無責任に捨てられた犬や猫たちが処分されています。一頭でも多くの犬や猫が幸せに暮らせるようにしたいものです。

猫の場合

メス猫は、生後7~8か月で成熟し、発情します。1年に数回発情し、この時期になると高い声で鳴きつづけるため、飼い主が悩まされることも多くなります。

とくに、オス猫は、ところかまわずするマーキングの尿スプレーやメスをめぐっての闘争、メスを求めての放浪と、行動にかかわる問題が増えてきます。こういう行動を抑えるためにも避妊と去勢は効果的です。避妊したメス猫はおとなしくなり、甘えるようになり、去勢したオス猫は攻撃的な面が少なくなります。去勢することで、発情期に騒ぐこともなくなり、問題が少なくなるでしょう。

集合住宅では、鳴き声やマーキングなどで周囲の人々に迷惑をかけないためにも、手術などで、飼い主がしっかり管理することをおすすめします。

犬の場合

メス犬が最初の発情を迎えるのは早い場合で生後5~6か月、遅い場合で生後1年半くらいです。メス犬の場合発情がきても行動にそれほど変化がなく、あまり問題ありませんが、隣近所のオス犬に落ち着きがなくなることがあります。犬には猫ほどの行動上の問題はありませんが、犬は係留が義務になっていて、自由な行動が制限されていますが、1年に2回しか発情しないので、メス犬の発情期だけ注意すればうまく管理できます。また、手術やインプラント（合成樹脂にホルモンを含ませた薬剤で発情を抑制する）を行った場合は、メス犬は精神が安定し、オス犬は性格が穏やかになり扱いやすくなります。

手術の時期

犬も猫も、オスメスともに、成犬・成猫になる前の生後6~7か月くらいに手術するのが適当でしょう。手術は、発情中でも、妊娠中でもできます。まず動物病院に相談してください。

犬との生活

1 犬の行動範囲

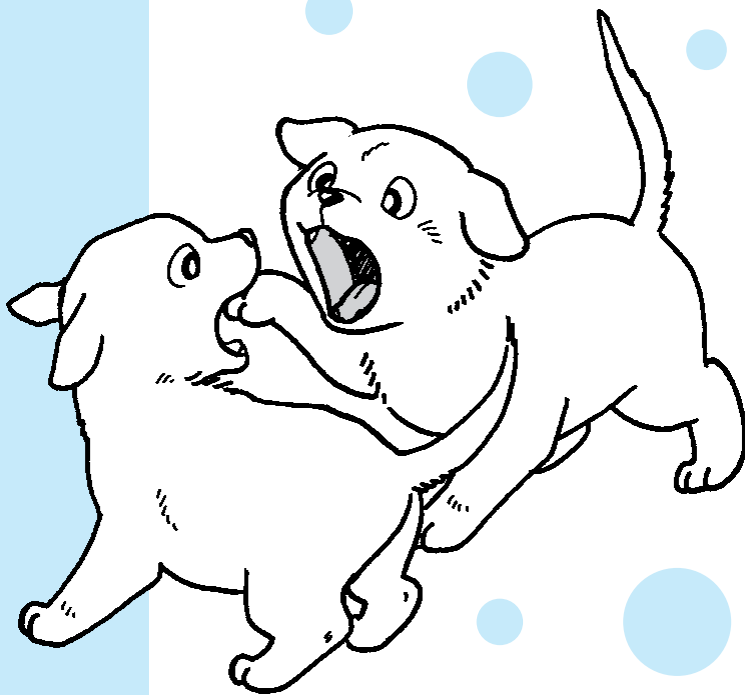
犬の先祖である狼は、群れ、つまり集団で獲物を追跡し、狩りをします。その群れには、狩りの指揮と獲物の分配を行うためリーダーが存在し、複雑な階級が生まれます。それも、群れで行動するだけでなく、家族単位で行動することもあり、状況によって行動パターンは変わってきます。家畜化された今日でも、犬は本能として狼の社会構造や行動様式を持ち続けています。その点で、犬は単独で狩りをする猫よりも複雑な社会の中で生きていると言えます。また、行動範囲についても、目に見える範囲をハンティングする猫より嗅覚で追跡するハンティングをする犬の方がより広い行動範囲を持ちます。

群れの中の順位は、子犬の遊びの中や、犬同士のふれあいの中で決まっています。子犬の遊びを見ても、ほとんどが順位を決めるための遊びになっています。

人間の社会の中で暮らす犬は、人間の家族と自分たちが一つの群れのメンバーと考えており、自分の住んでいる家が自分の守るべき場所だと信じています。庭がある家なら庭も占有スペース（ホームエリア）となり、友好的ではない犬の侵入を許しません。支配欲の強い犬にとっては、家族以外の人間は、群れ以外の侵入者となりますから、どんなに友好的な客でも撃退の対象となることがあります。

1万2千年以上前から犬の家畜化が始まり、犬の性質も人の社会で暮らせるように改良されていますが、その本来の性質である攻撃性は完全には消えていません。しかし、飼い主が群れのリーダーになることで、その攻撃性をコントロールすることは可能です。

犬は、自分だけのホームエリアの周囲に広いハンティングエリアを持っています。その範囲は散歩のコースと一致するといわれています。食物が確保されている日本の飼い犬にとって、ハンティングエリアは狩りの場というよりも、むしろ出会いの場であり、社交の場になっています。散歩コースで出会う犬たちと仲よくふれあえるよう、しつけていくことが大切です。

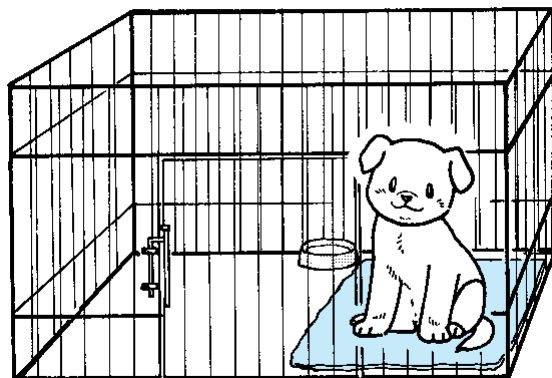


2 犬の飼い方

子犬を迎える日

初日は子犬の疲れと緊張をやわらげることが大切

初めてあなたの家にやって来た子犬は、緊張しているうえにたいへん疲れています。子犬に一番必要なのは、誰にも邪魔されずに休憩できるベッドと、少しの食べ物と水です。子犬が元気に部屋の中のチェックを始め、与えた食事もしっかりとることができるなら、健康状態も心配なく、社交的な性格の犬だといえるでしょう。逆に元気も食欲もなければ、移動で疲れているか、少し臆病な性格か、病気があるかのいずれかです。元気な子犬はまず部屋の中を探検して、自分の寝る場所を確保します。人なつこい社交的な子犬なら、抱いたり遊んだりしてもよいでしょう。臆病な子犬なら環境に慣れるまで様子を見てそっとしておきます。もちろん、散歩や外へ連れ出すことは我慢してください。特に小さな子どもがいる家庭では、そっとしておくように親から子どもに話をしあげましょう。



元気がない子犬にはブドウ糖を

子犬は移動や環境の変化など大きいストレスが加わると、食欲がなくなったり、下痢をしたりします。また、血液の中のブドウ糖が低下して低血糖になってしまいます。元気がない時は、飲み水や食べ物に少しブドウ糖を加えてみてください。水に少量のハチミツを入れるのも効果的です。初日は食欲が落ちるのが普通ですから、犬用のミルクをあげるのもよいでしょう。ブドウ糖は薬局で、ミルクはペット用品売場で購入できます。元気がない原因を飼い主が判断するのはむずかしいので、動物病院に相談してみましよう。下痢、嘔吐、咳、くしゃみ、発熱などがあれば病気の疑いがあります。すぐに購入元、もしくは動物病院に連絡を取るとよいでしょう。

子犬の居場所をつくる

子犬は、部屋の中に、犬用の小さな家やサークルなど、専用スペースがあると安心します。さらに、自分の匂いのついたものがあれば心強く感じますので、その犬が以前から使っていたタオルやぬいぐるみなどもいっしょにもらってくるとよいでしょう。小さな犬なら生涯、自分の場所となりますので、そこにいるときはできるだけそっとしておきます。大きくなる犬種ならま

Companion Animal

ず子犬用の小さなサークルか箱を準備し、大きくなったら成犬用に変えます。

サークルは犬の寝る場所として、またはトイレの場所として使いますが、スペース

をとるのであくまでも余裕のある場合だけに限られます。サークルは使えなくても小さな寝場所は確保してあげたいものです。

子犬の育て方

1～2週目

生まれて1～2週目までは母犬にまかせて育てるのがよいでしょう。子犬は不快なことがあると鳴き、母犬はその声に反応して子犬の面倒をみます。子犬がきちんと母乳を飲んでいれば、のびのびと育てている証拠です。この頃の子犬の体温は低く、体温を保つためのぬくもりと、よりかかる物を求めて母犬の下に潜り込みます。体重は生後約10日で生まれた時の2倍ほどになり、その後、立ち始め、目も開くようになります。

3～7週目

2～3週目には目が開き、耳が聞こえるようになり行動に大きな変化が見られます。母犬への全面的依存から独立への準備の時期で、他の兄弟の間で競争が始まり、飼い主を意識するようになります。母犬についてすみかから離れるのもこの頃です。

また、同時に離乳が始まる時期で、母犬が半分消化したものを吐き出して子犬に与えることもあります。子犬はそれを母犬の口に飛びついて受け取ろうとします。犬が大きくなっても人の口に飛びついて舐めようとする

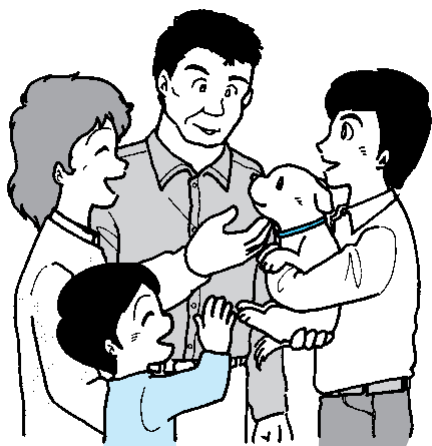
のは、母犬から食べ物を受け取ろうとする行動のなごりです。なお、この時期はトイレの確保も大切です。それまで、子犬の排泄は母犬が舐めて世話をしていましたが、離乳が始まると、子犬はすみかの外で排泄するようになります。すみかから離れたところにトイレを作ってあげましょう。

この時期は「社会化」と呼ばれ、子犬を育てるうえでもっとも心配りを必要とします。早い時期にほかの子犬から離されると犬を怖がることになり、多くの人に接触しないと人を怖がってしまうことになるので母犬や、いっしょに生まれた兄弟と遊んだり家族のいろいろな人と接触したりする必要があります。

また、行動範囲が広がり、いろいろなものに接触したがる時期で、探求心を満足させないと過剰反応を起こす犬に育つこともあります。生後12週目ぐらいまでは、いろいろな人間やほかの動物やものと接触することを通して社会性を身につかせましょう。一般家庭での繁殖の利点は、この時期に家族と多くの交流を持つことができることにあります。積極的に人や動物との接する機会を持つようにしてください。

8週目以降

自宅の繁殖ではなく、ペットショップで購入したり、譲ってもらってくるのは一般的にこの時期です。この頃には、リーダーを意識するようになり、支配欲の強い犬は



人間との関係を確立していきます。生後3～4か月の間に新しい飼い主との関係ができていくので、遊びや食事の管理の中で人がリーダーシップをとるようにしてください。

子犬から成犬へ

犬は犬種によって成犬になるまでの期間

が異なります。一般に小型犬は成長が早く、大型犬になるほど遅いといえます。成犬の体重が10kgに満たないような小型犬は、生まれて半年から1年で成犬に成長し、中型犬・大型犬は1年から2年ほどかかります。

トイレのしつけ

犬にとっての排泄

犬の排泄には3つの意味があります。
生理的排泄 マーキング ストレスの発散です。散歩の最中、電信柱や塀などにつけられた他の犬の尿の匂いを嗅ぎまわり、自分でも尿をかけておくのは、その場所が自分のテリトリーであることを示すものです。これをマーキングといいます。

トイレを決める

トイレのしつけは、はじめて家にやって来た日から始まります。まず、家の中と外のどちらで済ませるか決めましょう。室内で飼う場合は、犬が飼い主に外に出してもらおうのを待たなくてもいいように、トイレも家の中に作ります。

犬は、寝る場所や食事の場所を汚すのが嫌いです。トイレは生活の場所から少し離れたところを選びましょう。サークルの中に新聞紙を敷いてトイレの場所にする場合がありますが、その場合、その中で食事をさせたり眠らせたりしてはいけません。また、トイレには、新聞紙や市販のトイレシートを置きますが、犬がまたげる高さの薄い箱の中に敷くと便利です。なお、犬が混乱しやすいので一度トイレの場所を決めたら、できるだけ変えないようにしましょう。

トイレをしつけるポイント

犬は、朝起きてすぐ、昼寝の後、食事の後、遊んだ後などにトイレに行きたくなるようです。その時間をねらってトイレに連れていき、少し遊んであげます。また、そわそわしてまわりの匂いを嗅ぎ出したら、すぐにトイレに連れていきます。たとえ決めた場所以外でしてしまっても、叱らないようにしましょう。間違えてしてしまったところはきれいに拭いて匂いを消しておきます。犬は、自分の尿の匂いのするところをトイレと考えるので、尿のついた新聞紙やトイレシートをトイレに置いておくといいでしょう。きちんとできたときだけほめてあげれば、生後3

か月から半年ぐらいで覚えるようになります。散歩に行く前に必ず排泄をすませるようにしつけるのも良い方法です。



3 犬のしつけ

ほめ方・しかり方

欧米の飼い犬の行儀の良さは日本でも評判です。その理由は徹底的なしつけとしつけ教室の存在にあります。しつけとは、犬を訓練するのではなく、飼い主が犬の心理を学んでコミュニケーションをとっていくこと。まずは、ほめ方、しかり方からマスターしていきましょう。

犬の場合、ほめられても、叱られても、その理由を考えることはできません。ほめられたことと、叱られたことを学ぶだけです。楽しく学んだ方が早く覚え、楽しい記憶の方が記憶に残りやすいので、犬のしつけはほめることを中心に行います。しつけを確実に身につけさせるために、できるだけしつけ教室に参加しましょう。

ほうびのあげ方

ほめることはほうびを与えることで、ほうびはリーダーが順位の下のものに与えると考えてください。ほうびは、犬が喜ぶものなら何でも使えます。

ほうびの種類

食べ物 犬用のおやつや乾燥したレバー、干し肉を準備するとよいでしょう。

愛撫 胸からのど、頭、耳の後ろなどを撫でます。

庭に出す 室内で飼っている犬にはごほうびになります。

遊ぶ ボール、ぬいぐるみなど、犬の好きなおもちゃで遊ばせましょう。

ほうびは種類によって犬の反応が違うので、しつけたい内容によって使い分けます。たとえば、じっとさせたいときに、犬の大好きな食べ物を使えば、犬

はかえって興奮してしまい逆効果です。ほうびはその場ですぐに与えなければ効果がありません。

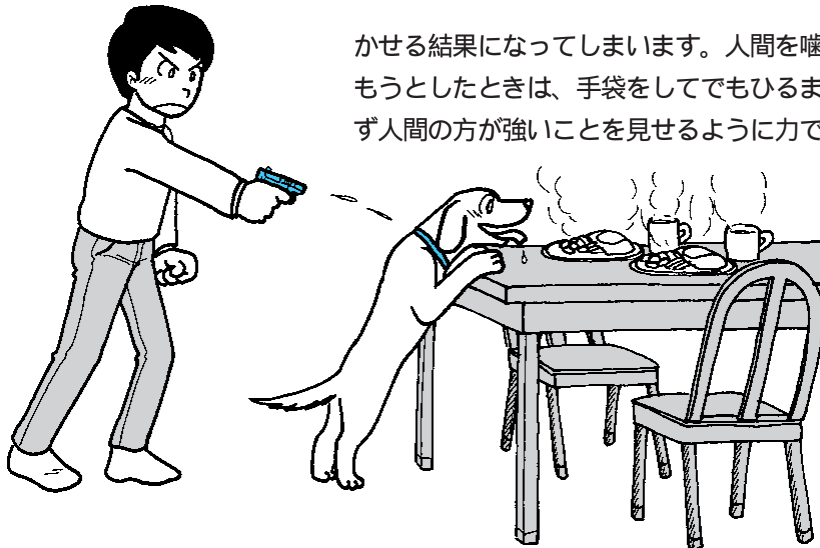
ほめ言葉

ほめ言葉もほうびの一つですが、食べ物などの目に見えるほうびといっしょにすると、ほめることが強化されます。また、ほうびはいつも同じように与えていると効果が減少しますから、ほめ言葉だけにすることも必要です。甘い言い方はリーダーからのほうびにならないので、言葉ははっきりと言いましょ。言葉としては、「よしよし」「いい子」などが使われることが多いようですが、家族全員が必ず同じ言葉を使い、犬に混乱させることのないようにしなければなりません。

叱り方

叱るときは、基本的に言葉や大きな音をたてることで表すようにし、体罰は与えないほうがよいでしょう。特に飼い主をリーダーとっていない場合、人を噛もうとしたときを除き、体罰を与えると闘争心を湧





かせる結果になってしまいます。人間を噛もうとしたときは、手袋をしてでもひるまず人間の方が強いことを見せるように力で

もってきびしく対抗します。

犬には「悪いこと」という意識はなく、「これをやったら叱られる」と考えているだけです。これをやると飼い主に叱られるということだけを覚え、飼い主のいないところでは悪い行動をやめません。そのような時は、飼い主がやったと気づかれない方法で、天罰が下ったと思わせるようにしましょう。たとえば大きな音がしたり、水が飛んできたり、敷物が引っ張られて転んだりすると、「これをやるといつも嫌なことが起こる」と考えさせることができます。

犬をリーダーにしないしつけ

人間が常に毅然とした態度で犬に接しないと、犬は群れのリーダーとして優位に立ちとうとします。その結果、日本でも多く見られるように、飼い主の言うことをきかない、コントロールできない犬に育ってしまいます。ほとんどの犬は、普通に育てれば、人をリーダーと考え、人の指示に従いますが、犬の種類や個性によって支配欲の強い場合もあります。そのような犬と暮らすには徹底したしつけが必要になります。もともと支配欲が少ない場合でも、あまり飼い主が犬を甘やかすと、犬の野性的な性質を引き出してしまいます。もっとも、犬をリーダーにしない方法は、生活習慣の中の少しの気配りだけで、犬に苦痛を与えるわけではありません。

日常生活の中で

食事はリーダーである人から与えられるもので、時間も人間が決めます。人間の食事が終わるまで待たせたり、犬が



食べている途中で食事を取りあげたりしても、従うようにしつけます。

部屋や家では、常に人が先に入出入りするようにします。

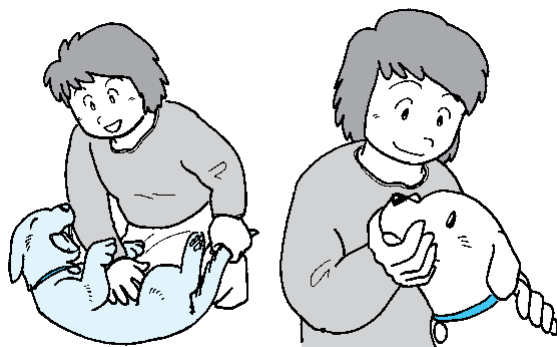
廊下や椅子に犬がいたとしても、人が来れば道を開け、椅子に座りたいときは空けさせます。

大きな犬が飛びついてきても、肩に前足をかけさせてはいけません。小さい犬を抱くときは、肩より低い位置に抱きます。

命令をしたら絶対守らせます。飼い主の命令は絶対であり、例外は決してありえないと教えます。

子犬との遊びの中で

子犬の遊びには、順位づけと狩りの練習の意味があります。子犬といっしょに遊ぶということは、人も狩りの練習に加わるといことです。遊びの中で人の強さを教えていくことで、自然な形で犬にとってのリーダーになることができます。



犬と遊び道具で遊んでもかまいませんが、遊びは常に人がリーダーシップをとり、道具は必ず人間がします。遊びで犬を仰向けにし、お腹や尻尾など、どこを触られても平気なように慣れさせます。この姿勢は絶対服従の姿勢です。遊びの途中で犬の口を手でふさいでみましょう。これは人の強さを示す姿勢です。動物の社会では、口の大きいほうが強いとされ、口をふさがれるのを犬は嫌がります。

手入れ中で

子犬のときから手入れをしていれば嫌がることはなく問題ありませんが、成長してから始めると、抵抗することがあります。そのような時は、テーブルの上などに乗せると犬が自由に身動きできなくなり、おとなしくなります。

どこでも触りましょう。

耳 耳の中を見て汚ければ、綿棒や脱脂綿でやさしく拭きましょう。耳の中に毛の生える種類では定期的に毛を抜きます。

口 口を開けて歯と歯茎のチェックをし、できれば歯茎のマッサージや歯磨きなどの手入れを試みてください。

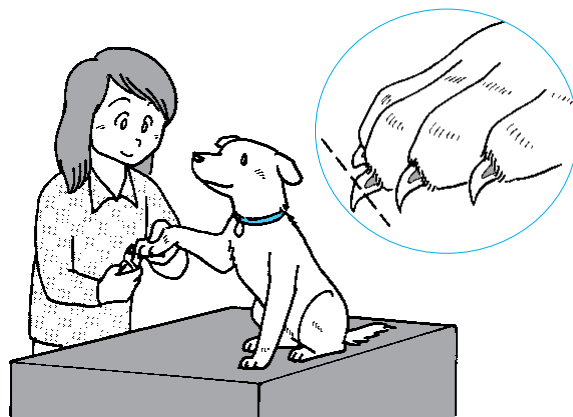
肛門 肛門付近が汚れているかどうか調べます。体温をはかるのもここです。

ブラシや櫛を使ってブラッシングします。シャンプーを時々やってみます。犬用のシャンプーが市販されています。

爪を切ります。人間の爪切りでは爪が割れてしまいます。必ず犬用のものを使ってください。毎日散歩をしていれば切る必要ありませんが、前足の後ろ側にある狼爪は、土に触れないのでいつも注意してください。明かりに透かしてみると、爪の中に血管が見えます。それを傷つけないようにして、先端だけ切ります。

ヒゲを切ってもかまいません。犬の種類によってはすっきりした顔にするためいつも切る犬もいるほどです。

犬の種類によっては足の肉球の間に毛がはえます。いつも短く切りましょう。



散歩

毎日犬を連れて散歩に出かけましょう。散歩はほかの犬とのコミュニケーションをはかる場でもあり、犬の健康のためにも不可欠です。犬種によっては、かなりの量の運動を必要とする場合もあります。1回の散歩時間としては、小型犬なら20分～30分、中型犬は30分から1時間、大型犬なら1時間から1時間半ぐらいかけてください。一般的には朝と夕方の日2回によく行われますが、ライフスタイルに合わせて散歩時間を選びましょう。いっしょに歩く人間にとっても、運動不足解消に役立ちますし、他の飼い主たちと情報交換することができるので、積極的に連れ出してください。

また、散歩のマナーとして、飼い犬のふんは、そのまま放置せず、必ず処理してください。飼い犬のふん放置禁止を条例に盛り込み、罰金規定を設けている区市町村もあります。ふんの始末は愛犬家の最低限のマナーとして守りましょう。

首輪とリード

散歩には首輪（カラー）とリード（紐）が必要です。そのため、まず飼い犬が首輪に慣れるための訓練をしましょう。最初は、犬が嫌がるかもしれませんが、その場合は、食べ物で誘導して首輪に慣れさせてください。

時間がたてば、散歩が楽しいので、自分から喜んで首輪に頭を入れるようになります。ただ、子犬は首まわりがしっかりとってから首輪をつけてください。それから、成長するにしたがって何度か取り替えてあげましょう。

首輪は、材質として、革やチェーン、ナイロン製などさまざまな種類が出ていて、引っ張ると首が少し締まるタイプや固定タイプなどがあります。中・大型の成犬のしつけには、首が少し締まるタイプが便利でしょう。また、長毛犬は首輪に毛が絡まないよう注意してください。

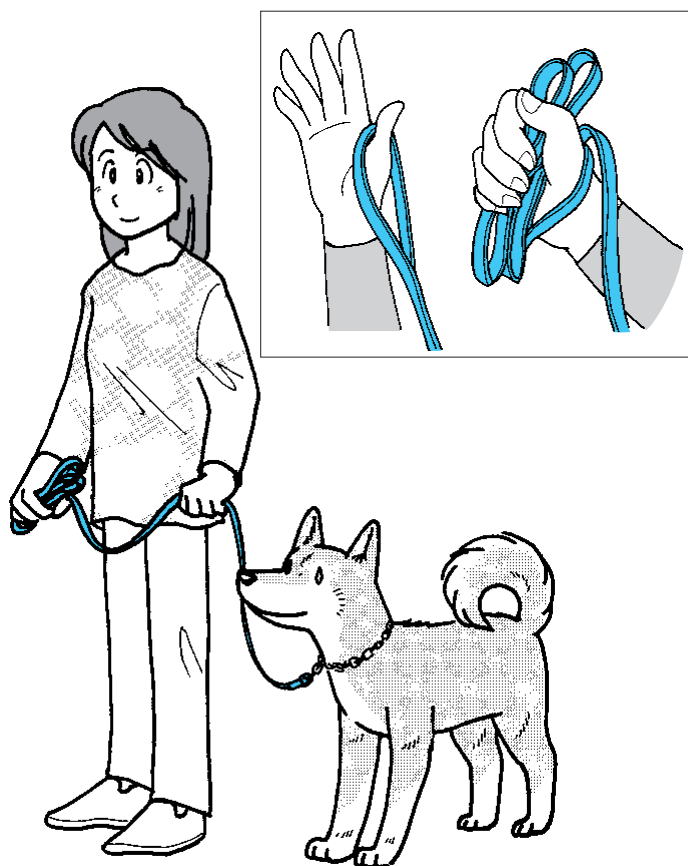
一方、リードは散歩用の紐で、革、化学繊維、鎖、組紐などの種類があります。中・大型犬のしつけには革製のリードが便利です。リードの太さは犬の体格に合わせて選び、手で握ったときに扱いやすい幅のものを選んでください。

首輪もリードも種類がふえ、さまざまなしつけ方法が実践されています。獣医師、訓練士などのアドバイスを参考に、用途に合わせ、材質や種類を選びましょう。



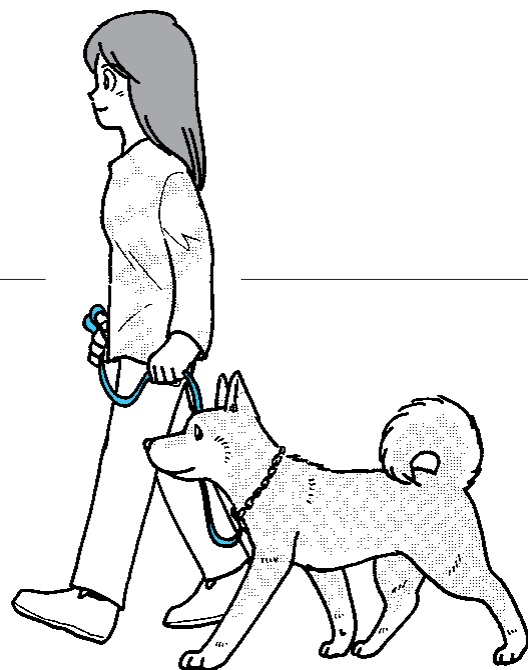
リードの持ち方

リードは、右利きなら右手で、左利きなら左手で持つようにしましょう。持つところの輪は手首に入れず、親指にかけるようにすると、とっさのときに力が入りやすくなります。利き手でリードの端を持って、もう片方の手で中ほどを持つ方法は、リードが短くなりコントロールしやすくなります。始めのうちはこの方法でつけていき、しだいにリードの端を持っているだけでもきちんと歩けるようにしましょう。



歩き方

散歩のとき犬は人の左側を人間と同じ歩



調で歩くようにしつづけます。子犬は人の横をゆっくり歩く必要など感じていませんから、自由気ままに歩こうとします。しかし、しつけの際に必要なのは飼い主が主導権を譲るリーダーウォークを行うこと。人間より前を歩かせないようにさせる方法を紹介します。

塀のある道を選んで、犬を塀と人との間を歩かせます。人間より前を歩こうとしたら、足を犬の前に出して進路を妨害します。

一緒に歩きながら犬が前にでたら、リードを自分の後ろに回し、犬を反対側に移します。

犬が右に行けば左に、左ならば右へと犬を廻して、逆らって歩きます。

犬の顔を見ないで、無言で犬に逆らって歩きます。

人間と同じ歩調で歩けるようになったら、意識的に勝手気ままに、前後、左右に動かして、人間の指示に従わせましょう。

あまり熱心にやって、犬が散歩を嫌いになったのでは意味がありません。しつける時間は散歩の時の10分くらいでもかまいませんから、毎日続けることが大切です。

服従訓練

散歩に出て、いっしょに歩きながら、「マテ」や「フセ」を教えます。言葉は「待ちなさい」や「伏せて」など、少し柔らかい言葉でもよいでしょう。必ずはっきりとした口調で命令するようにします。

少し難しいことを教えるときは、ほうびとして食べ物などを与えますが、簡単なことを教えるときは、言葉でほめるだけにした方がよいでしょう。ほうびを与えるときは、言葉や手のサインを加えるとより効果的です。

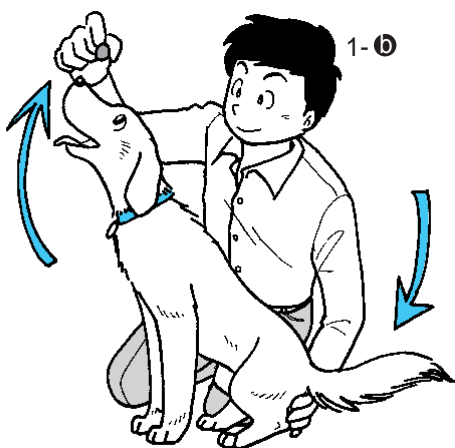
1 「スワレ(オスワリ)」を教える

散歩では、歩くことだけでなく待つことも必要です。普通は人間の左側に座らせます。しつけるには次のような方法があります。



① リードを短く持って軽くお尻を押さえるのが簡単な方法です

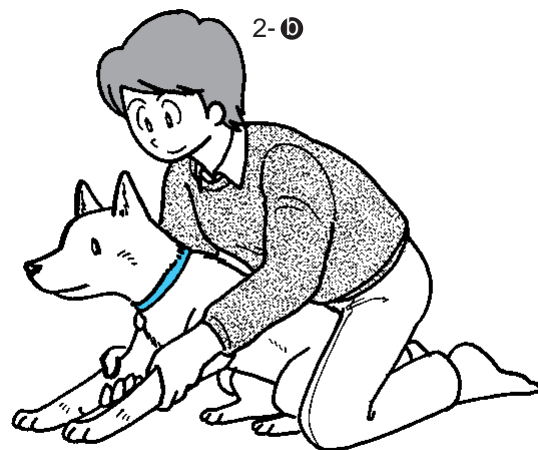
② 大きくなった犬では、食べ物を顔の上の方に出すと、犬は顔をあげ、尻が下がります。そっと手を添えて押すと「オスワリ」になります。

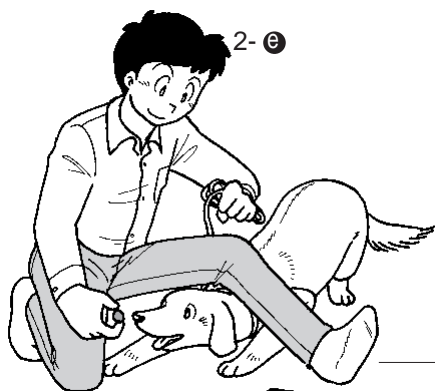


2 「フセ」を教える

少し長い時間待つ時は、「フセ」の姿勢で待たせます。いくつか方法がありますので、飼い主と犬が一番やりやすい方法を選んでください。

- ① 散歩の途中で大きな犬に教える場合、リードを地面近くまで押しつけ、首を下げさせます。
- ② 後ろ側から抱くようにして前足を出させます。
- ③ 子犬では、「スワレ」の姿勢からリードを足で踏むことで、自然と「フセ」の姿勢になります。
- ④ 向かい合って前足を手前に引きます。





2-⑨

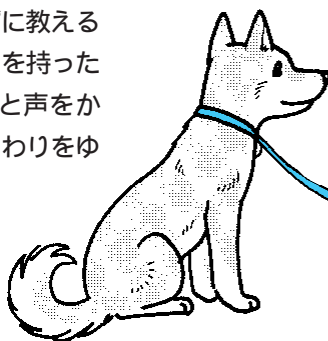


- ⑨ 椅子の下や足の下へ食べ物で誘導します。
- ⑩ 犬と向かい合って食べ物を地面すれすれに出し、背中を押しても「フセ」の姿勢になります。

3 「マテ」を教える

散歩中に人と立ち話をするときなどには、「マテ」と命令します。初めは短い時間でも、きちんと待っていたらほめてあげ、徐々に長時間待てるようにしつけていきましょう。座っての「マテ」、伏せの「マテ」などがありますが、最初ば「スワレ」をさせてからの「マテ」を教えるとよいでしょう。

- ⑥ 犬が座った姿勢で「マテ」と声をかけながら、食べ物などのほうびを見せたまま、犬から少し離れます。すぐに戻ってきてほうびをあげます。初めは犬が動きそうになる直前に戻ってくるようにします。
- ⑦ ほうびを使わずに教えるときは、リードを持ったまま、「マテ」と声をかけ続け、犬のまわりをゆっくり歩きます。犬が立ちとうとしたらすぐに「マテ」



と言い、リードを下に引くようにして座させます。待てるようになったら、犬に背を向けて離れていくようにします。犬が動いてしまわないかどうか、顔だけは犬に向けて歩いていきます。

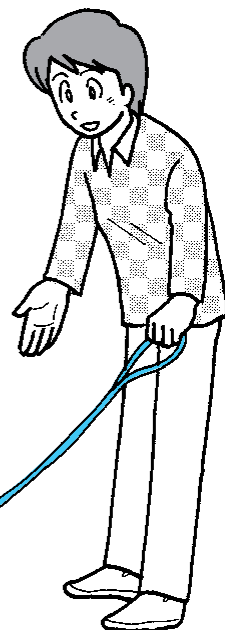
⑧、⑩どちらの方法でも、犬が動いたら、もう一度戻って「スワレ」からやり直しましょう。

根気よく繰り返し教え、犬から離れる距離と時間を少しずつ長くしていきます。

4 「コイ」を教える

いつでも呼べば戻ってくる犬にしつけておけば、近寄らせたくない物や人、ほかの犬に興味を持ったとき、犬が戻りたがらずに困ることもありません。

- ⑧ 長いリードを使い、「マテ」をさせて犬から離れ、「コイ」といって犬を呼びます。ほかのことに興味があって、なかなか来ないようなら、リードを引いて近くに來させてから、よくほめてあげるとよいでしょう。
- ⑨ 飼い主から離れているときに、食べ物などのほうびを見せながら「コイ」と声をかけます。「コイ」と呼ばれたときは、いつでもほうびがもらえると考えさせます。



4-⑧

4 問題行動とその対策

犬にとっては正常な行動でも、飼い主にとっては飼い犬が周囲に迷惑をかけたり、危害を加えたりするため問題となる行動があります。一般的に問題とされる行動とその対策を紹介しましょう。また、自分で対処できないと感じたときには専門家に相談してください(P34)

ムダ吠え (なわばりを守る)

犬が吠える理由には、支配的な威嚇、恐怖、苦痛、縄張り、母性、学習、興奮、退屈、不安など、多くの理由があります。吠えることは、家畜化された犬の基本行動で、理由もなく吠えることはありません。

もともと、人間が犬を家畜として飼い始めたのは、外部からの侵入者に対して吠えて知らせ撃退するためでした。しかし、現代の都会、特に集合住宅で、外部からの侵入者、つまり配達の人や来客に吠えることは、最大の問題行動です。犬にとってはよいことをしているつもりなので、叱ると混乱してしまいます。また、きつく叱ると飼い主に不信感を募らせるうえに、飼い主がいなければ吠えてもかまわないと犬が認識してしまいます。このような場合、犬がだれに叱られたかわからないように、罰を与えるのがよい方法です。たとえば、玄関にマットを敷いて長い紐をつけ、吠えたら強く引いて転ばせたり、空缶に小石を入れて大きい音を出したり、軽いボールを犬にめがけて投げたり、いずれにしても飼い主がやったとわからないようにする必要があります。



分離不安

飼い主がいなくなると、吠えたり、いたずらしたり、さまざまな問題行動をとる犬がいます。これは飼い主に対する依存が強すぎて、とり残されたという不安が募っているため。出かける時や帰った時に必ず同じ言葉をかけたり、抱いたり、ある決まったパターンで犬に接する飼い主もいますが、これはやめましょう。むしろ、黙って出かけ、帰って来た後も15分から30分くらい無視し続ける方が、不安を与えません。外出する際ラジオを流したり、家族の声の入ったテープを流したりすることも効果があります。また、家の中でも、おいしい食べ物匂いのついたおもちゃなどを、飼い主と離れた場所へ置いて遊ばせ、ひとりで遊ぶ時間を少しずつ長くしていくという練習をするのもよいでしょう。

攻撃性 (飼い主に対するかみつき)

犬が噛みつく原因にもたくさんの理由があります。食べ物やおもちゃを奪い合う競争、順位争いの支配性、オスの喧嘩、恐怖、苦痛、縄張り争い、ハンティング、母性、学習などですが、その原因を飼い主が把握することが大切です。

たとえば、犬の支配欲から起こる噛みつきは、人がリーダーになっていないために起こります。子犬のときからきちんとしつけていれば問題は起きませんが、すでに噛みつき犬に対しては、人間がリーダーであることをはっきりさせなくてはなりません。効果的な方法としては、一切無視することがあげられます。食事と与えず散歩も行かず無視します。そのうち犬の方が、人間が声をかけることを待つようになります。犬が飼い主の注意を引こうとしたら、犬を呼んで「オスワリ」や「フセ」をさせて、指示に従ったときだけほめて食事を与えます。そして、徐々に犬にさまざまな命令をして人がリーダーであることを生活の中で示していきます（P27～28参照）。家族の中で特定の人だけが攻撃の対象になっているときは、その人だけが命令するようにしてください。また、大型犬などは非常に危険なので、早急に専門家に相談してください。

飛びつきとマウント

犬が飛びつくときは人の口を目指しますが、これは母犬の口から離乳食をもらうなごりです。子犬の時期に他の犬や人間とふれあう機会が少なかった犬に多く見られます。飛びつくことをやめさせるには、日頃から犬を抱いて口をなめさせたりしてはいけません。

また、オス犬がメスのパートナーのお尻にまたがり、腰を押しつける行為をマウントといいますが、来客や子供を相手にマウントする犬もいます。マウントは、成犬のオスだけではなく、子犬にも、そしてメス犬にも見られます。人間に対してマウントするときは順位や敵か味方かがはっきりし

ない混乱した気持ちがあるためです。とくに、オス犬が人間に対してマウントしがちな場合は、子犬のときにほかの犬との接触が少なかったということが原因としてあげられます。去勢すると60%の犬がやめるようになりますが、まずはしつけでやめさせるようにしてください。しつける際は、2本足で立っている犬に外側から足をかけるなどして倒してやめさせます。声を出して叱ったりせず、表情を変えず、穏やかに、何が起きたかわからないようにします。



専門家に相談する

自分で対策を講じたものの結果が出ないという場合や、飼い主の手に負えないという場合は、すぐにコンサルタント、犬のトレーナー、獣医師など専門家に相談しましょう。問題の原因を究明して、その矯正にあたってくれます。ほとんどの問題行動はそのアドバイスに従えば数か月で矯正できます。

5 健康管理

食 事

犬科の動物はキツネやタヌキのように雑食動物がほとんどです。でも、犬の祖先の狼は雑食動物ではありません。犬は人と暮らす長い歴史の中から雑食の道を選んだようです。

犬の成長や健康維持に必要な栄養素をすべて含んだ料理は、手間も経済的な面から見ても大変です。犬の健康のためにもバランスのとれたドッグフードを使うことをおすすめします。

便利で安心のドッグフード

多くの飼い主が犬にドッグフードを与えています。ドッグフードにはいろいろな種類がありますが、「総合栄養食」という表示のあるものであれば、犬に必要な栄養素がバランスよく配合されているので、安心して与える事ができます。その種類は水分の量で大きく2つに分類することができます。犬の好みにあわせて選びましょう。

ドライタイプ

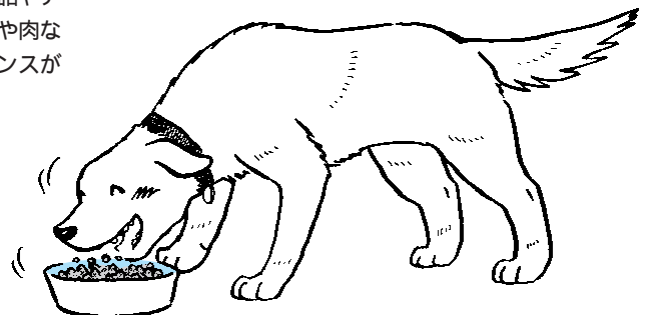
水分の含有量が10%以下で、加圧押し成型によりカリカリになった粒状のフード。栄養のバランスがよく、適度な硬さは歯のためにもよく、比較的保存に適しています。必ず新鮮な水を十分に与えるようにしましょう。

ウェットタイプ

水分が75%以上含まれているもので、缶詰やアルミトレイに入って販売されています。魚や肉などの素材の食感や風味を生かし、栄養バランスがよく、また嗜好性が高く、種類も豊富です。

食事の与え方

食事は子犬の時期はまだ胃が小さいので、少量でも栄養価の高い食事を1日数回に分けて与える配慮が必要です。離乳直後で1日6回程度、生後6か月くらいまでは1日3~4回を目安に与えます。成犬に成長すると食事量も安定し、1日1~2回でよいでしょう。ドッグフードには、離乳食から子犬用、成犬用、老犬用などと年代に応じたもの、また肥満用、病気のときに使うものまで数多くの種類が準備されています。1日の必要カロリーは体重によって異なりますので、選び方、使い方については、獣医師や販売店の人に相談してみるとよいでしょう。



病気と予防

日本の犬の平均寿命は着実に伸びていますが、欧米諸国に比べるとまだまだ低いようです。たとえば、動物病院での受診率やワクチン接種率、ペットフードの普及率などは欧米諸国に及ばず、日本の場合、犬のワクチン接種率は約25%、猫にいたっては約10%という割合です。ペットと仲良く、楽しく暮らすために飼い主が予防の必要性をきちんと認識することが大切です。

犬の死亡の原因は、子犬のときは伝染病によるものが多く、中年以降は、心臓病やガンなどの病気が原因となります。

僧帽弁閉鎖不全

心臓病の一種で、早ければ4~5歳になると咳などの初期症状が現われることがあります。初期の咳は深夜から早朝にかけて、

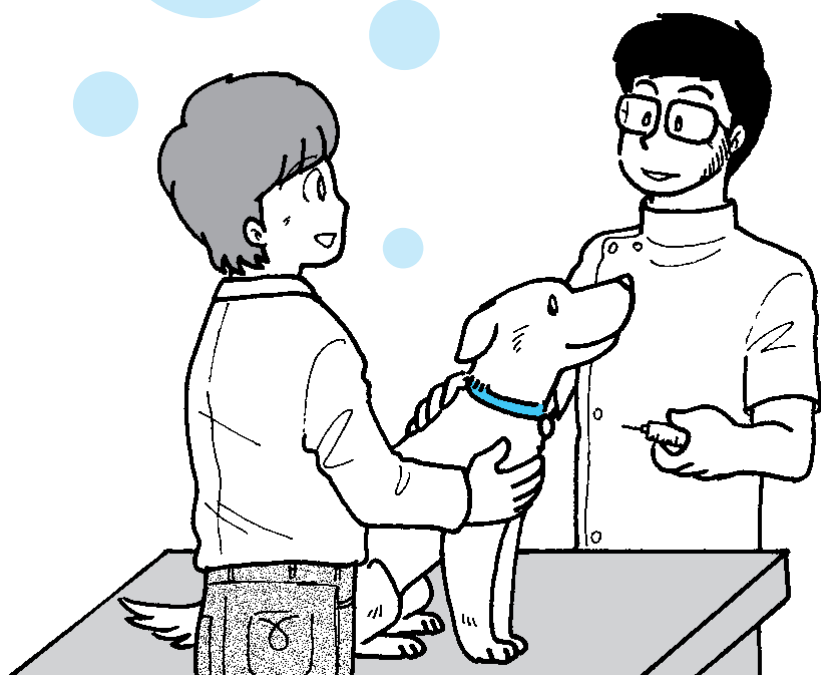
もしくは興奮したときなどが多いようです。犬の咳は、喉に何かつかえているか、痰を吐いているなどと間違えやすく、病気が進行すると1日中咳をするようになり、夜眠らなくなります。

食欲は末期までそれほど落ちることはありませんが、咳が出たらすぐに診断を受け、投薬や食事療法を行って楽な生活が送れるようにしてあげましょう。治療は生涯必要になり、激しい運動は避けるようにします。

ガン

犬の高齢化に伴ってガンも増えてきました。内臓のガンは自覚症状もなく発見が遅れることがあります。

皮膚のガンはいつも体を触って、しこりをチェックしていれば早期発見につながります。ガンの中ではメス犬の乳ガンが一番多く、高齢のメス犬にとっては、かかりやすい病気といえます。手術以外に有効な治療法はなく、手術を受けなければガンはどんどん大きくなりますし、歳をとってからの手術は危険が伴います。人と違い犬の乳腺は10個あり、最終的にはすべての乳腺をとるようになります。



ジステンバー、伝染性肝炎、 パルボウイルス感染症など

犬の伝染病には、ジステンバーを始め、伝染性肝炎、パルボウイルス感染症、レプトスピラ症、パラインフルエンザなどがありますが、どれもワクチンが開発されています。生後2か月前後から数回に分けてワクチン接種を行います。ワクチンによって予防効果や効果の持続期間は異なり、すべての病気を100%予防できるわけではありません。ワクチンは、少なくなった抗体を増やすため毎年1回追加接種します。

フィラリア症

正確には犬心臓系状虫といい、長さが20～30cmの心臓の寄生虫で、日本ではアカイエ蚊が媒介します。予防薬は犬の体の中で成長した幼虫の脱皮を阻害するため、蚊の発生の1か月後から、シーズン終了後1か月までの期間、1か月1回服用させます。生後6か月以上で夏を過ぎた犬は、すでに蚊に刺されて成虫がいる可能性もあります。この場合予防薬を飲ませると副作用を起こすことがありますので、事前に必ず血液検査をしてください。

区市町村への登録申請と 狂犬病防止のための予防注射義務について

飼い犬は狂犬病予防法により、登録と予防注射が義務づけられています。生後91日以上の犬を飼い始めたら、30日以内に区市町村に登録を申請し、鑑札の交付を受けてください。犬が死亡したときや犬の所在地、所有者の住所など登録内容を変更したいときも届けが必要です。

狂犬病予防注射は、飼い始めてから30日以内

ノミ

ノミが出始める1～2か月前から予防薬を飲ませます。ノミの薬は毎年のように効果的な薬が開発されています。ノミが気になったら動物病院に相談しましょう。

腸の中の寄生虫

寄生虫検査をして虫が発見されたら駆虫薬を使うのが原則ですが、昔に比べると、寄生虫は少なくなっているため、定期的に虫くだしを飲ませる必要はありません。もっとも感染が多い犬糸虫もノミがいなければかかりません。犬糸虫以外の胃や腸の消化器官の寄生虫は、消化器官のなかで卵を生むので、検便で診断することができます。駆虫薬は正しい診断と正しい薬選びが必要です。少し元気がないからといって薬を飲ませ、病気を悪化させることのないよう、必ず動物病院で診察してもらいましょう。

に獣医師のもとで受けましょう。その後は毎年4月から6月までの間に注射を受けてください。狂犬病は、動物にも人間にも感染する病気で、日本では昭和32年以来発生していませんが、海外ではまだ多くの国で発生しています。注射済み証明書を保健所に提出して、注射済票を受け、鑑札ともに必ず装着しておきましょう。

集合住宅で

ペットと楽しく暮らそう！

Part 2

犬の場合



居住者同士、ペット同士 どんどん交流を！

集合住宅の中で、そこに住む犬や猫、そして人々と顔見知りになれば、犬の社交性を満足させるだけでなく、むだ吠えすることも少なくなります。お互いの犬を連れて訪問し合うのはもちろん、散歩にもいっしょに出かけましょう。いろいろな人々と、犬がふれあうことで、ペットを飼っている人も、飼っていない人も、お互いにより理解しあうことができるでしょう。

困ったときは助け合い

犬の飼い主が家族で旅行に出かけるとき、同じマンションやアパートに住む人同士が預かり合ったり、散歩を手伝い合ったりしたいものです。ペットホテルや動物病院でも預かってくれますが、やはり慣れている場所で過ごし、知っている人と散歩する方が、犬にとってはストレスがありません。飼っている犬といっしょに散歩することもできますので、負担も軽く、楽しい散歩になります。「預かりましょうか？」と声をかける、その一言から始めてください。

集合住宅のマナーを考えよう

集合住宅の中には犬が好きではないという人もいます。近隣に迷惑をかけずに飼うためにはマナーを守りましょう。まず、犬を飼うことが決まったら、すぐ隣近所にあいさつをしましょう。そして、その際に「何かあったら、すぐ連絡をください」と話しておきます。もし近隣から迷惑だという話があったら、早急に解決するようにしましょう。

共有部分では注意してね！

散歩に行くとき、大型犬なら必ずリードをつけ、小型犬なら胸に抱くようにしてください。また、エレベーターの使用には注意しましょう。きちんとしつけをしていても、エレベーターの中で知らない人と一緒にいると、犬が緊張して吠えてしまう場合もあります。できるだけ他の人との利用は避けましょう。



第4章

集合住宅で
ペットと暮らすためのルール集合住宅での
ペット問題日本人のライフスタイルの変化と
意識の向上

日本で本格的な集合住宅が作られたのは、昭和30年代の高度経済成長期に入ってからです。それまでの日本は工業社会をめざしていましたが、工場も地方分散型でしたので、昔からの社会構造を大きく変える必要はありませんでした。ところが、30年代からの工業化は大都市集中型。人間も都市へ集中し、団地という集合住宅が誕生しました。まだ集合住宅そのものに前例のない状態ですから、初期の公団住宅では自由にペットの飼育ができました。しかし、都市での生活、集合住宅での生活について慣れていないままペットと共に暮らし始めたため、ベランダに犬小屋を置いたり、鳴き声や臭いで迷惑をかけたたりと、トラブルが多発しました。その結果、飼育禁止の規則が作られたのです。

高度成長期を経て40年、日本人のライフスタイルは大きく変わりました。ペットも人の暮らしの中でよりよいパートナー＝コンパニオンアニマルとして考えられるようになり、ペットに対する意識も変化しています。しかし、集合住宅でのペット飼育については、いまだに近隣とのトラブルなどが発生し、多くの集合住宅で飼育禁止の規則が残されています。集合住宅の居住者を始め、その地域の人々がお互いのライフスタイルを尊重し合う中でペット問題に取り組むことが、今、求められているのです。

ペットとのより豊かな生活を実現するためには、まず、飼い主が一定のルールに従って正しく飼育することが大切です。そして、周辺の住民に対しても、ペット飼育について理解を得られるよう努める必要があります。

ペットと暮らすための
規則ペット飼育に向けた
規約改正広がる

日本では、全世帯数のうち約38%が集合住宅に住んでいます。都市部はさらに多くの人々がアパートやマンションなどの集合住宅に暮らしています。ちなみに東京23区内では集合住宅の占める割合は約70%にも上ります。

多くのアパートやマンションの管理規約の中に、ペットの飼育禁止が定められていますが、実際は、ペットを飼っている人たちも少なくありません。そのような実状をふまえて、ペット飼育を認める動きが行政などで始まりました。

平成4年、東京都動物保護管理審議会では「東京都における動物の適正飼養の推進策について」の答申が出され、集合住宅でのペット飼育について、ルールづくりが必要であるとの提言がなされました。これを受けて、東京都は平成6年、行政として初めて「集合住宅における動物飼養モデル規定」を作成しました。

また、平成9年、14年ぶりに建設省の中高層共同住宅標準管理規約が改正され、ペットを飼えるような配慮がなされています。これは、分譲マンション向けのものですが、各集合住宅においてモデル管理規約ともなるでしょう。ここに、その一部を抜粋しました。

第18条関係(使用細則)のコメント2

2) 犬、猫等のペットの飼育に関する規定は、規約で定める事項である。

飼育を認める場合には、動物等の種類及び数等の限定、管理組合への届け出、または登録等による飼育の把握、専有部分における飼育方法並びに共有部分の利用方法及びふん尿の処理等の飼育者の守るべき事項、飼育に起因する被害等に対する責任、違反者に対する措置等の規定を定める必要がある。


なお、基本的事項を規約で定め、手続き等の細部の規定を使用細則等に委ねることは可能である。

ルールづくりの提案 ペットクラブの結成

集合住宅の居住者全員が気持ちよく暮らしていくためには、ペットを飼っていない人を含めた居住者全員の理解と協力が必要です。まずペットを飼っている人で飼育者の会を作り、周囲の理解が得られるように努めましょう。飼育者の会を作ることで、正しい飼育マナーを広めていくことができます。飼い主は皆、責任を持ってペットを飼うという意識を持たなくてはなりません。マナーの悪い飼い主がたった一人でもいれば、理解を得ることは困難になるからです。また、ペットを飼っていない人からの苦情に対して、よりスムーズに対応することもできます。

飼育者の会の規則としては、以下のような点を定めておくことをおすすめします。居住者全員が快適な生活をおくるために必要なことを挙げてありますが、規則の内容は、それぞれの集合住宅の設備や環境、居住者の要望、管理組合の意向、現在のペット飼育の実状などに合わせて検討するとよいでしょう。

飼育規則	飼い主の会 について	飼育動物 について	その他
飼い主の守るべき項目 犬も猫も居室で飼い、居室で世話をする 周囲を汚さない、騒音などで迷惑をかけない。とくに、ペットのフンと毛の始末には十分気をつける しつけを行う 繁殖制限に努力する ペットが損害を与えたときは、誠意をもって解決する 共有部分では、ケージに入れるか、もしくは抱いて移動する 災害時の対策を考えておく	希望すれば誰でも入会できる 飼い方についての理解を深める 個人では解決困難な問題に対応する 飼育希望者の相談にのる 管理組合と対応する ペットに関する苦情が管理組合に訴えられた際は、会から飼い主たちに連絡し、状況改善に努める。また、飼い主から管理組合に対し要望があれば、会が代表して要請する	飼育することのできるペットの種類、大きさ、数などを決める	飼育許可の申請 新しくペットを飼うときには、飼い主の会に届け出て、会の責任者が管理組合に申請し許可を得る形式をとる 許可の表示 許可されたペットの種類、名前、年齢、許可年月日などを各戸の表札の下などに表示する 盲導犬、介助犬、聴導犬に対する理解 盲導犬や介助犬、聴導犬などについては、種類や大きさ、数の規定にかかわらず飼育できるものとする 違反に対する対応 会の規定に反した飼い主については、会が責任を持って対処する



『コンパニオンアニマル リサーチ』は、
“人間とコンパニオンアニマルとの共生”をテーマに、
より豊かな社会を目指します。

『コンパニオンアニマル リサーチ』の活動

責任を持ってコンパニオンアニマル(犬・猫)を飼うための啓発活動を行います。
“人間とコンパニオンアニマルとの関係”における研究活動の援助をします。
新しい分野における研究着手のためのアプローチも展開していきます。
都市生活の中で、コンパニオンアニマルが住みやすい環境づくりに力を注ぎます。
コンパニオンアニマル関連の国際的なノウハウ及び知識の蓄積と可能な限りの
情報提供に努めます。

『コンパニオンアニマル リサーチ』(Companion Animal Information and Research Center)は、1997年にマース ジャパン リミテッド(旧マスターフーズリミテッド)の支援のもとに設立された非営利団体です。2000年10月には世界的組織IAHAIO(International Association of Human-Animal Interaction Organizations・人間と動物の関係に関する団体の国際組織)の参与会員(affiliate member)になりました。また、IAHAIOに参加している、フランスのAfirac(コンパニオンアニマル 情報研究協会)と協力関係にあります。

Companion Animal Information and Research Center[®]
コンパニオンアニマル リサーチ[®]

本書からの複写を希望される場合は、コンパニオンアニマルリサーチまでご連絡ください。



制作
著作

Companion Animal
Information and Research Center®

コンパニオンアニマル リサーチ®

監修 社団法人 日本動物保護管理協会